

小橋工業(株)のホームページ(以下、弊社サイト)においては、カタログ・取扱説明書・パーツリスト等の電子データの閲覧、ダウンロードのサービス(以下、本サービス)をご提供しております。

本サービスをご利用の際には、以下の注意事項をご確認ください。

## 電子データの取扱いについて

### 電子データの内容について

- 本サービスにおいては、弊社製品のカタログ、取扱説明書、パーツリスト等、製品に関する全ての印刷物を網羅するものではありません。
- カタログ、取扱説明書、パーツリストの内容は、製品の仕様変更などにより、予告なく変更される場合があります。その為、弊社サイト内に掲載される電子データの内容は、販売店等で配布、掲示されるカタログ、製品購入時に同梱する取扱説明書、印刷物として存在しているパーツリストの内容とは異なる場合がございます。

表記内容は、発行当時の情報であり、弊社純正部品の名称、小売単価、各営業所の名称、所在地などの情報が現在と異なる場合があります。

また、製品安全上の取り扱い、環境対応につきましては、製品販売時の法令、規制に適合するものであり、製品販売後の法令、規制の変更内容を反映していない場合があります。予めご了承ください。

### 著作権について

本サービス内の電子データにつきましては、弊社(小橋工業株式会社)が著作権その他知的財産権を保有します。無断で他のウェブサイトや印刷媒体に転載することや複製、翻訳等はできません。但し、お手持ちの製品ご使用の為、1部に限り印刷することができます。

### 保証について

弊社の製品保証、安全性の保証は製品付属の書面に基づく保証に限られており、弊社サイト内の電子データに基づく保証は提供いたしません。

### お問合せについて

ご使用の製品の取り扱い及び、使用上の安全等に関するお問合せは、ご購入店にご相談頂きますよう、お願いいたします。

### 免責事項

弊社サイトのご利用に起因するソフトウェア、ハードウェア上の事故その他の損害等につきましても、一切の責任を負いません。

弊社サイトのご利用に際して生じたお客さまと第三者との間のトラブルにつきましては、一切責任を負いません。弊社サイトのサービスは予告なく中止、または内容や条件を変更する場合がございます。

以上

小橋工業株式会社

# コバシ甘しょハーベスター

## 取扱説明書

### HS700D



当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本  
取扱説明書をお読みください。誤った使いかたをすると、  
事故を引き起こす恐れがあります。  
お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。

**KOBASHI**

## はじめに

このたびは、コバシイも類収穫機（スーパーポティ）をお買い上げいただきましてありがとうございます。ありがとうございました。

この取扱説明書は、ポティの性能を十分に発揮させ、より安全で快適な農作業をしていただくためにも、ご使用前によくお読みいただき、正しい取扱いをしてくださるようお願いいたします。

又、ポティを他の人に貸出しされる場合には、この取扱説明書も併せて貸出していただき、正しい取扱いをしていただくようにご指導をお願いいたします。

なお、本製品については、不断の研究成果を新しい技術としてただちに製品に取り入れておりますので、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますが、あらかじめご了承ください。

### ▲ 安全作業のポイント

◎安全な作業をしていただくためには、まず機械の使い方を十分理解し、正しい取扱いをすることが基本となります。

◎この取扱説明書では、特に、重要と考えられる取扱上の注意事項について、次のように表示しています。

必ずお読みいただいて事故のない安全な作業をしてください。

▲ **危険**…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

▲ **警告**…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

▲ **注意**…その警告文に従わなかった場合、ケガを負う恐れがあるものを示します。

**取扱上の注意**…その警告文に従わなかった場合、機械の損傷を起こす恐れのある操作を示します。

### 本機の使用目的・使用範囲

◎本製品は主に甘しょ収穫用の作業機としてご使用ください。

掘取り可能な畦寸法であれば、いろいろな作物を掘れますが、代表的なものは、甘しょ・バレイショ・ニンジンです。

使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。

(詳細は、保証書をご覧ください。)

# 目次

▲ 安全に作業をするために	1	こんなトラブルが起こったら	35
一般的な注意項目	1	定期点検	38
作業前後の確認時の注意項目	2	1. 定期点検・整備の時期について	38
運搬時の注意事項	3	2. 定期点検一覧表	39
移動作業時の注意項目	5	3. 燃料の点検・補給	40
作業終了後、格納時注意事項	8	4. 燃料タンクのドレン抜き	40
▲ 安全ラベルの取扱および貼付位置	9	5. 燃料の空気（エア）抜き	41
サービスと保証について	13	6. 燃料コシ器エレメントの点検・掃除・交換	41
各部の名称	14	7. エンジンオイルの点検・補給・交換	41
レバー関係の操作方法	15	8. エンジンオイルエレメントの交換	43
1. キースイッチ	15	9. パイプ類の点検のしかた	44
2. 変速レバー	16	10. エアクリーナの掃除・交換のしかた	44
3. マルチレバー	16	11. 冷却ファンベルトの点検	45
4. 掘取コンベア昇降レバーロック	16	12. 冷却水の点検・補給・交換	45
5. 走行クラッチ	17	13. 走行ミッションオイルの点検・交換	47
6. 作業クラッチ	17	14. ゴムクローラの張りかた	48
7. 駐車ブレーキレバー	17	15. HST油圧オイルの交換	48
8. コンベア速度レバー	18	16. 掘取コンベアの張りかた	49
9. スロットルレバー	18	17. コンベア従動ローラの点検	50
10. ライト	18	18. コンベア用HSTオイルの点検	50
11. アワーメータ	19	19. コンベア減速機・オイルの点検	51
12. パイロットボックス（警報装置）	19	20. 選別コンベアの調節	51
13. フューエルメータ	19	21. 選別コンベア内部の点検	52
始業点検	20	22. スクレーパの調節	53
1. 作業時の体調：服装について	20	23. コンベア駆動チェーンの点検	53
2. 本機の点検のしかた	20	24. 走行クラッチレバーの調節	53
上手に作業するには	21	25. 作業クラッチレバーの調節	54
① 運転の要領	21	26. コンベアストップワイヤの調節	54
1. 始動のしかた	21	27. 主変速レバー、コンベア速度レバー、	
2. 発進のしかた	22	スロットルレバーの支点部の緩み調節	55
3. 走行のしかた	23	28. ヒューズ・スローブローヒューズ	
4. 停止のしかた	23	の点検・交換	55
5. 旋回のしかた	24	29. バッテリ配線の点検	56
6. 傾斜地・坂道の駐車	24	作業が終わったら	58
7.トラックへの積み降ろし	25	1. 作業後の手入れ	58
8. 圃場への出入り	26	2. 長時間使用しない場合の手入れ	58
9. 傾斜地での走行	27	3. 格納	58
② 作業の要領	27	その他	60
1. 車輪の調節	27	1. 標準付属品	60
2. コンテナの配置	28	2. ベルト規格	60
3. 座席の調節	29	主要諸元	61
4. 掘取作業	30	電気配線図	62
5. 選別作業	34		

## ▲安全に作業するために

安全に作業していただくために次のことを守ってください。  
もし怠ると…傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります。

ここに記載されている注意項目を守らないと、

死亡を含む傷害や事故、機械の破損が生じるおそれがあります。

※ ご購入された製品によっては、該当しない内容も一部記載していますのでご了承ください。

### ● 一般的な注意項目

#### 本機を使用する前に必ず「取扱説明書」を

取扱説明書をよく読み、機械の使い方をよく覚えてからご使用ください。

機械の操作を知らずに使用するとたいへん危険です。

取扱説明書は、いつでも読めるように、機械と一緒に大切に保管してください。

#### 【守らないと】

死亡事故を含む傷害や事故、機械の破損等が生じるおそれがあります。



#### 機械を他の人に貸すとき（譲り渡すとき）は

取扱説明書も併せて貸出（譲渡）していただき、正しい取扱いをしていただくように、指導してください。

#### 【守らないと】

説明不足により死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。



#### こんなときは運転しない

- ① 飲酒運転
- ② 居眠り運転
- ③ 病気や薬物の作用で正常な運転ができないとき
- ④ 若年者
- ⑤ 妊娠中の方

機械の操作に十分熟練し、心身ともに健康な状態で運転してください。



▲ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

### 服装には注意を払いましょう

作業中の服装は、ヘルメット、すべらない靴、活動的でキチンとした作業服を着用してください。

だぶついたズボンや上着・はち巻き・首巻き・腰タオルなど、掘取り部や回転部分に巻き込まれやすい服装は、たいへん危険です。ボタンもキチンととめましょう。

**【守らないと】**

機械に巻き込まれたり、滑って転倒し、ケガをするおそれがあります。

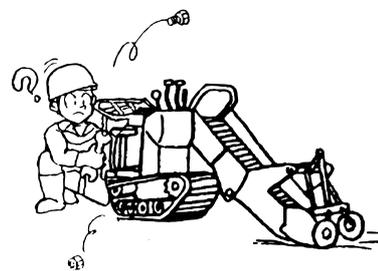


### 機械の改造の禁止

使用目的以外の作業や、機械の改造は事故の発生、又は、機械の故障の原因となりますので、決してしないでください。

**【守らないと】**

機械の故障、事故、ケガをするおそれがあります。



## ● 作業前後の確認時の注意項目

### 作業前には機械の点検を

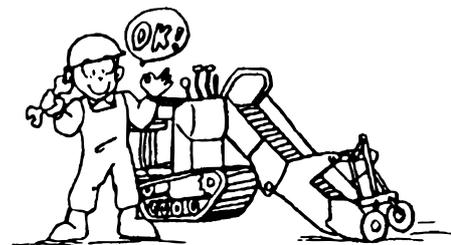
点検時はエンジンを停止して、機械が倒れたり動いたりしない、平坦で安定した場所で行ってください。

また各部のボルト、ナットなどの緩みや、ピンの脱落がないか確認してください。

作業中にボルト、ナット、ピンなどが外れますと、機械の破損の原因および事故の原因となります。

**【守らないと】**

思わぬ傷害事故の原因となります。



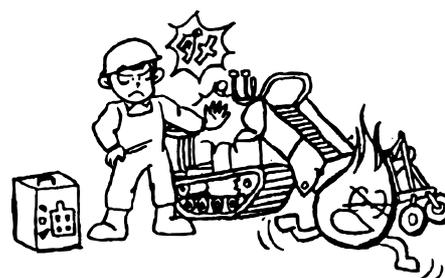
### 燃料および各オイルの給油

給油の際は、周囲に火気のない場所を選び、必ずエンジンを停止し、各部が完全に止まりマフラーやエンジンなどの過熱部分が冷めきってから行ってください。

火気厳禁です。

**【守らないと】**

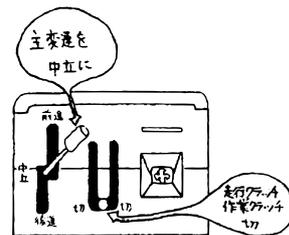
燃料などに引火して、火災の原因となることがあります。



▲ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

## エンジンの始動

エンジンを始動する前に必ずエンジンの取扱説明書を読み、よく理解してからエンジンを始動させてください。その際には、必ず走行クラッチ、作業クラッチを「切」、主変速を「N」位置（中立）にしてください。

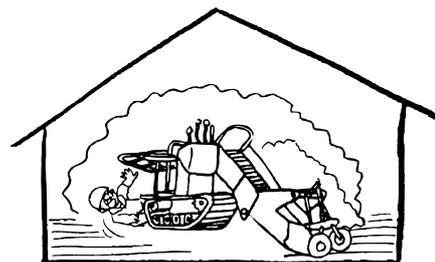


## 排気ガスには十分注意

閉め切った屋内などではエンジンを始動しないでください。エンジンは風通しのよい屋外で始動してください。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分に換気してください。

### 【守らないと】

排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故に至るおそれがあります。



## カバー類は元の位置へ

点検のために外したカバー類は、必ず元の通りに取付けてください。

## ● 運搬時の注意事項

### 公道の移動はトラックで

本機での公道走行は、道路交通法違反となります。  
トラック等に積んで圃場まで運んでください。  
トラックへの積込み積載オーバーに注意してください。  
過積載での移動は絶対にしないでください。



▲ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

### アユミ板を確実に固定する

滑り止めをした丈夫なアユミ板をクローラ幅に合わせ、確実に固定してください。

また、傾斜角度、平行度を確認してください。

アユミ板の傾斜は、15° 以内となるようにしてください。

#### 【守らないと】

転落などの事故をまねくおそれがあります。

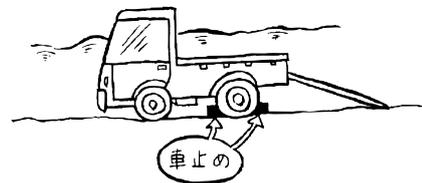


### トラックには、必ず車止めを

トラックは移動しないようにしっかりと車のサイドブレーキをかけてください。

#### 【守らないと】

トラックが動いて転落事故などをまねくおそれがあります。

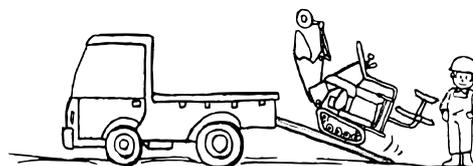


### 積込み、積み降ろしについて

- 積込みは必ず前進で行い、積み降ろしは必ず後退で行ってください。
- 副変速レバーは必ず「低速（収穫）」で行ってください。  
積込み、積み降ろし中は、副変速レバーを、「高速（走行）」  
「低速（収穫）」へ切り換えしないでください。
- 積込み、積み降ろしの際は、コンテナ台を収納し、機体上にものを乗せないでください。また、大変危険ですので絶対に機械に乗車しての操作はしないでください。
- 積込み、積み降ろし中は、絶対にアユミ板の下へは入らず、落下などの場合に危険回避できる状態で作業してください。

#### 【守らないと】

転落などの事故をまねくおそれがあります。



▲ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

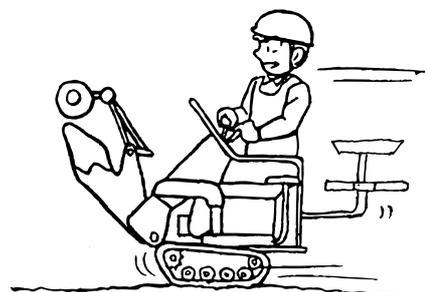
## ● 移動作業時の注意事項

### 移動時の確認

移動時は、掘取コンベアを持ち上げ、前側の左右コンテナ台は収納し、中側の左右コンテナ台も収納し、後側コンテナ台・空コンテナ台は作業状態にしてください。また、助手席および補助席は格納し、乗車しないでください。

【守らないと】

転落事故を起こすことがあります。

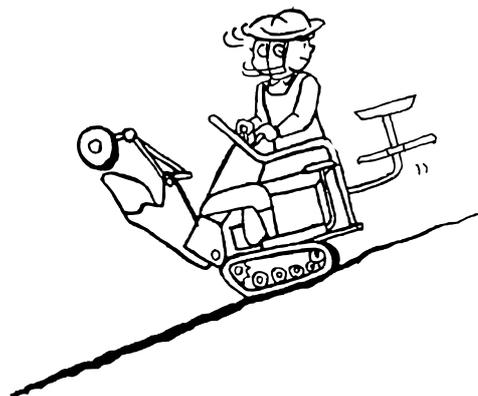


### 旋回時の前後左右の確認

- 旋回する場合は、機体の前後・左右に十分注意して行ってください。特に、その場旋回（スピントーン）のときは、後方が大きく動きますので、後方の確認を十分行ってください。
- 副変速レバーが「高速（走行）」でのその場旋回（スピントーン）は大変危険ですので、必ず「低速（収穫）」に切り換えて行ってください。
- 移動時には、助手席・補助席には乗らないでください。

【守らないと】

思わぬ事故をまねくおそれがあります。

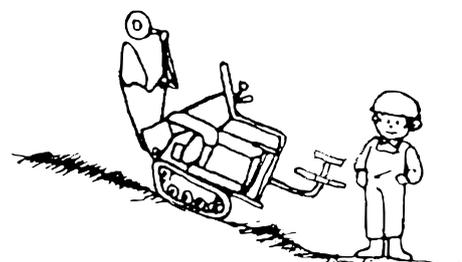


### 坂道は走行注意

- 急な傾斜地では、速度を落とし、前後・左右のバランスに十分注意して走行してください。下り坂の場合は、後向きで、上り坂の場合は、前向きで走行してください。
- 機械が前後左右とも5°を越える傾斜地を移動するときは、機体から下りて操作してください。
- 坂道では、副変速レバーの「高速（走行）」「低速（収穫）」への切り換えは絶対しないでください。

【守らないと】

バランスを崩し、転落などの事故の原因となります。



▲ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

### 圃場への出入り

- 圃場に入るときは、必ず速度を下げ、掘取コンベアを地面と接触しない程度に下げ、圃場に対して直角に出入りしてください。

本機は構造上、重心が前にありますので、圃場が道路より低い場合は後ろから、道路より高い場合は前から入ってください。

また出るときは、圃場が道路より低い場合は前から、道路より高い場合は後ろから出てください。

あぜや段差に対して斜め方向に進むと、横滑りや転倒する危険があります。

- 急な傾斜地や高い段差、又は溝ごえなどの場合は、必ずアユミ板を使用してください。

また危険ですので乗車しないでください。

**【注意しないと】**

転落事故を起こすことがあります。



### 居眠り運転、わき見運転の禁止

- 居眠り運転、わき見運転をしないようにあらかじめ体調を整えてください。
- 前進・旋回・後進のときは周囲の人に合図をし、機械の付近に人がいないか、安全を十分確かめて作業をしてください。

**【守らないと】**

傷害事故の原因になります。



### 合図で安全確認

二人以上で共同作業を行う場合は、お互いに合図して、十分に安全を確認した上で作業を行ってください。

エンジン音で合図が聞こえないことがあります。安全確認は十分に行ってください。



▲ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

## 掘取部、クローラに手を近づけない

掘取部・クローラなどの危険な部分に、接触しないよう十分注意してください。

特に掘取コンベアと選別コンベアのすき間に手を入れないように注意してください。

### 【守らないと】

コンベアに手を巻き込まれ、傷害事故をまねくおそれがあります。



## 掘取作業中の注意

- 掘取コンベアの昇降をするときには、共同作業者との安全確認を十分行ってください。
- 作業クラッチレバーが「入」の状態では、掘取コンベアの昇降位置により、コンベアが回転しますので注意してください。
- 掘取り作業中は、絶対に副変速を「高速（走行）」で使用しないでください。
- 故障・異常に気付いたら、直ちに作業をやめ、修理してから使用してください。



## 坂道では駐車禁止

点検を行う場合は、平坦な場所へ機械を止め必ずエンジンを停止してから行ってください。

やむを得ず傾斜地にて行う場合は、駐車ブレーキをかけ輪止めをしてください。

### 【守らないと】

機械が動きだし、事故の原因となります。



## 高温部分に注意

エンジン部分（マフラー・ラジエーターなど）は高温になり、触れるとやけどする危険がありますので十分注意してください。

### 【守らないと】

やけどをする危険があります。



▲ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

## ● 作業終了後、格納時注意事項

### 機械から離れるときは平坦な場所に置き エンジンを止める

- 機械から離れる場合には、平坦な場所へ機械を止め、掘取コンベアを降ろした状態にして、エンジンを停止し、キーを抜いて保管してください。

やむを得ず傾斜地にとめた場合は、駐車ブレーキをかけ輪止めをしてください。

- 他人（特に子供）に危険が及ばないように注意してください。

【守らないと】

機械が動きだし、事故の原因となります。

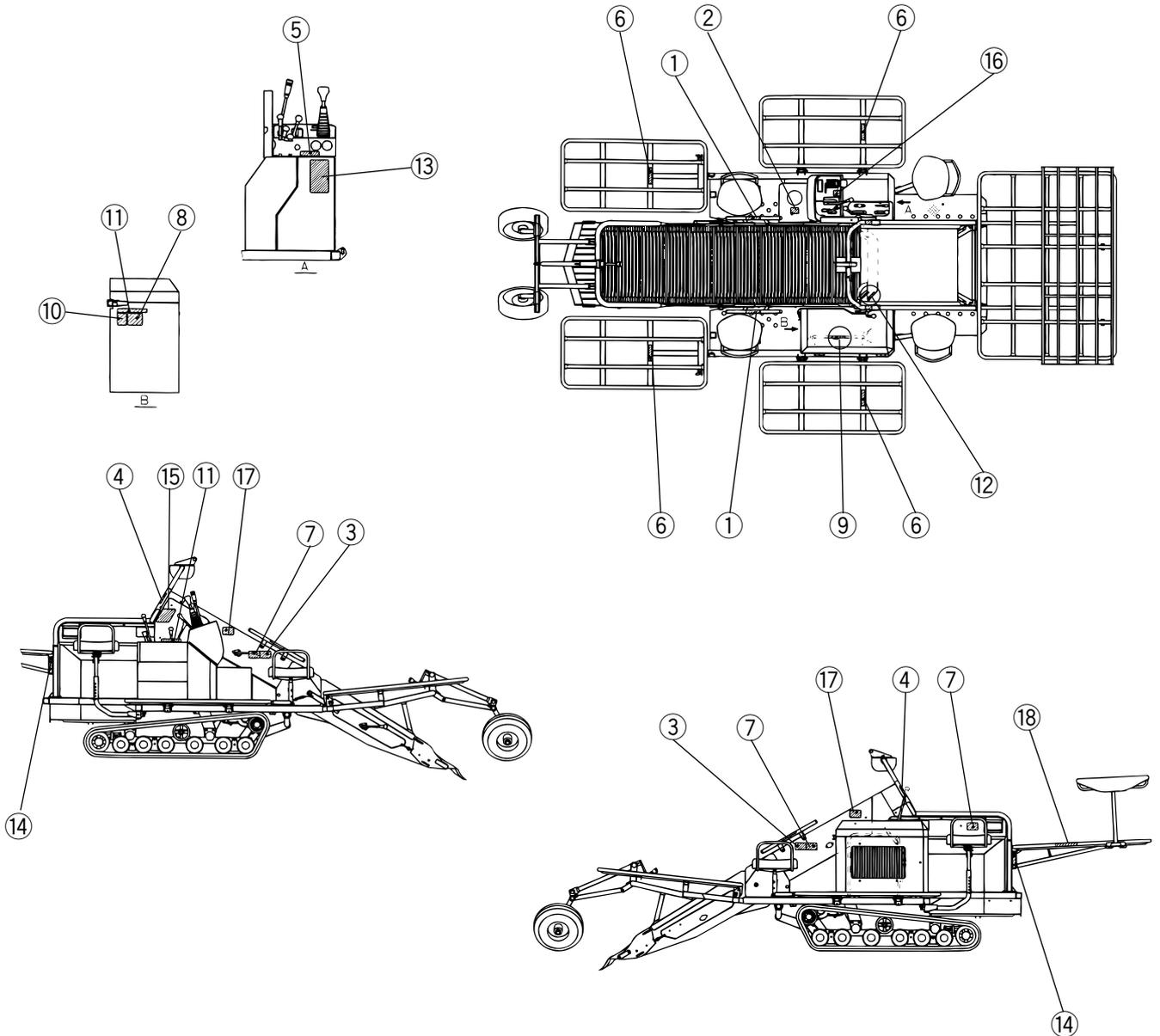


## 安全ラベルの取扱および貼付位置

- ① いつも汚れや泥をとり警告がハッキリと見えるようにしてください。
- ② 安全ラベルが損傷したり破損した時は、新しいものと交換してください。
- ③ 安全ラベルを貼ってある部品を交換した時は、必ず新しい部品に、取外した部品と同じ場所に安全ラベルを貼ってください。

下記に示す、安全ラベル以外にもラベルがありますので同様に取り扱いしてください。

ラベルに書かれている内容をよくお読みになって、理解した上で作業してください。



①

コードNo.9992123

<b>▲ 危険</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●動いているコンベアの中に手を入れないでください。</li> <li>●巻き込まれてケガをするおそれがあります。</li> </ul> <p style="text-align: right;">9992123</p>	
-------------	--	---

②

コードNo.9992097

 <b>火気厳禁</b>	<b>▲ 危険</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●給油口に火を近づけると火災になるおそれがあります。</li> <li>●給油中は、エンジンを停してください。</li> </ul> <p style="text-align: right;">9992097</p>	
<b>●ディーゼル軽油</b>	

③

コードNo.9992124

<b>▲ 警告</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●動いているコンベアの上での作業は大変危険ですので注意してください。</li> <li>●コンベア昇降時、手・足をはさまれないように気をつけてください。</li> <li>●けがをするおそれがあります。</li> </ul> <p style="text-align: right;">9992124</p>

⑤

コードNo.9992105

<b>▲ 警告</b>		<b>排ガスに注意</b>
<p>室内および換気の悪い場所での運転は排ガスが充満し、人体に有害です。 9992105</p>		

④

コードNo.9992116

<b>▲ 警告</b>

<ul style="list-style-type: none"> <li>●コンベア間に手を入れないようにしてください。</li> <li>●巻き込まれて、ケガをするおそれがあります。</li> </ul> <p style="text-align: right;">9992116</p>

⑥

コードNo.9992209

<b>▲ 警告</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●コンテナ台には乗らないでください。けがをするおそれがあります。</li> <li>●移動走行時はかならずコンテナ台を収納してください。</li> </ul> <p style="text-align: right;">9992209</p>
-------------	--	--

⑦

コードNo.9992117

<b>▲ 注意</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●移動時は乗車しないでください。</li> <li>●転落してケガをするおそれがあります。</li> </ul> <p style="text-align: right;">9992117</p>

8

コードNo.9992092

<b>⚠ 注意</b>		
		
<b>エンジンカバー解放運転注意</b> ● 運転時、カバーを開けないでください。 ● 高温部に高温部にふれるとやけどのおそれや、回転部でケガをするおそれがあります。 9992092		

9

コードNo.9992093

<b>⚠ 注意</b>		● 高温時にはキャップを開けないでください。 ● 熱湯が吹き出しやけどをするおそれがあります。 9992093
-------------	---	---

11

コードNo.9992108

<b>⚠ 注意</b>		● カバー類は常に装着してください。 ● はずしたままで運転するとケガをするおそれがあります。 9992108
-------------	---	---

10

コードNo.9992107

<b>⚠ 注意</b>	
	点検時 エンジン 停止
● 点検整備をするときは、エンジンを停止してください。●ケガをするおそれがあります。 9992107	

13

コードNo.9992210

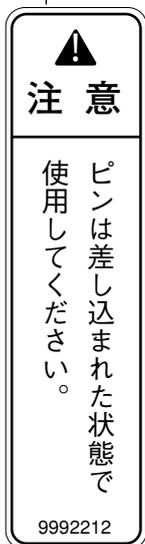
<b>⚠ 注意</b>	
	使用前に取扱説明書をよく読んで安全で正しい作業をしてください。
1. 始業点検は必ず励行してください。 ● エアークリーナーの汚れ清掃、エンジンオイルの量と汚れ。 ● 潤滑油、燃料の有無及び漏れ。 ● 各ボルトの緩み。 2. エンジンを始動する前にクラッチレバー類を切または中立の位置にしてください。 3. 自然通気が悪い所や充分な換気ができない所でのエンジン始動あるいは作業をしないでください。 4. 点検整備時はエンジンを止め、各部が完全に停止してから行ってください。 5. 公道は走れません。 6. トラックへの積込みは前進で行ってください。 7. 急な傾斜地は速度を落としバランスを考慮して走行してください。 8. やむをえず、傾斜地・坂道で駐車する場合は必ず駐車ブレーキをかけ、輪止めをしてください。 9. 長時間格納する時はコンベアが下がらないようにロックチェーンを使用してください。 9992210	

12

コードNo.9992110

<b>⚠ 注意</b>		<b>マフラー高温注意</b> さわるとやけどをするおそれがあります。 9992110
-------------	---	---

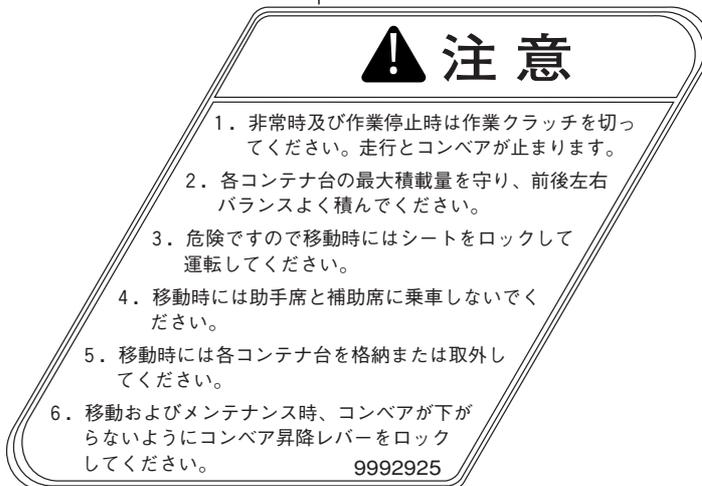
14



コードNo.9992212

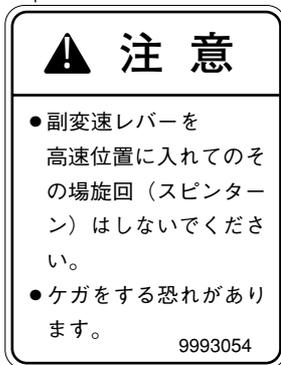
15

コードNo.9992925



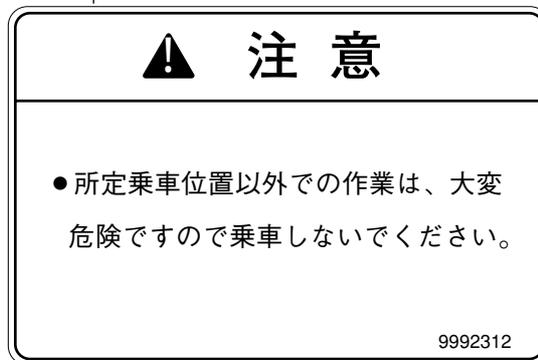
16

コードNo.9993054



17

コードNo.9992312



18

コードNo.9992863



# サービスと保証について

## 1 保証書について

本製品には保証書が添付してあります。保証書はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。保証内容は保証書をご覧ください。お読みになった後は大切に保管してください。

## 2 アフターサービスについて

機械の調子が悪いときに点検、処置してもなお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買い上げ頂いた販売店、農協、弊社営業所までご連絡ください。

その際

- 機械の型式名と製造機械番号
- ご使用状況（作業速度、回転数はいくらで、どんな作業をしていたときに）
- どのくらい使用されましたか（約〇〇アール・約〇〇時間使用后）
- 不具合が発生したときの状況を、できるだけ詳しくお教えてください。

製造機械番号



## 補修用部品の供給年限について

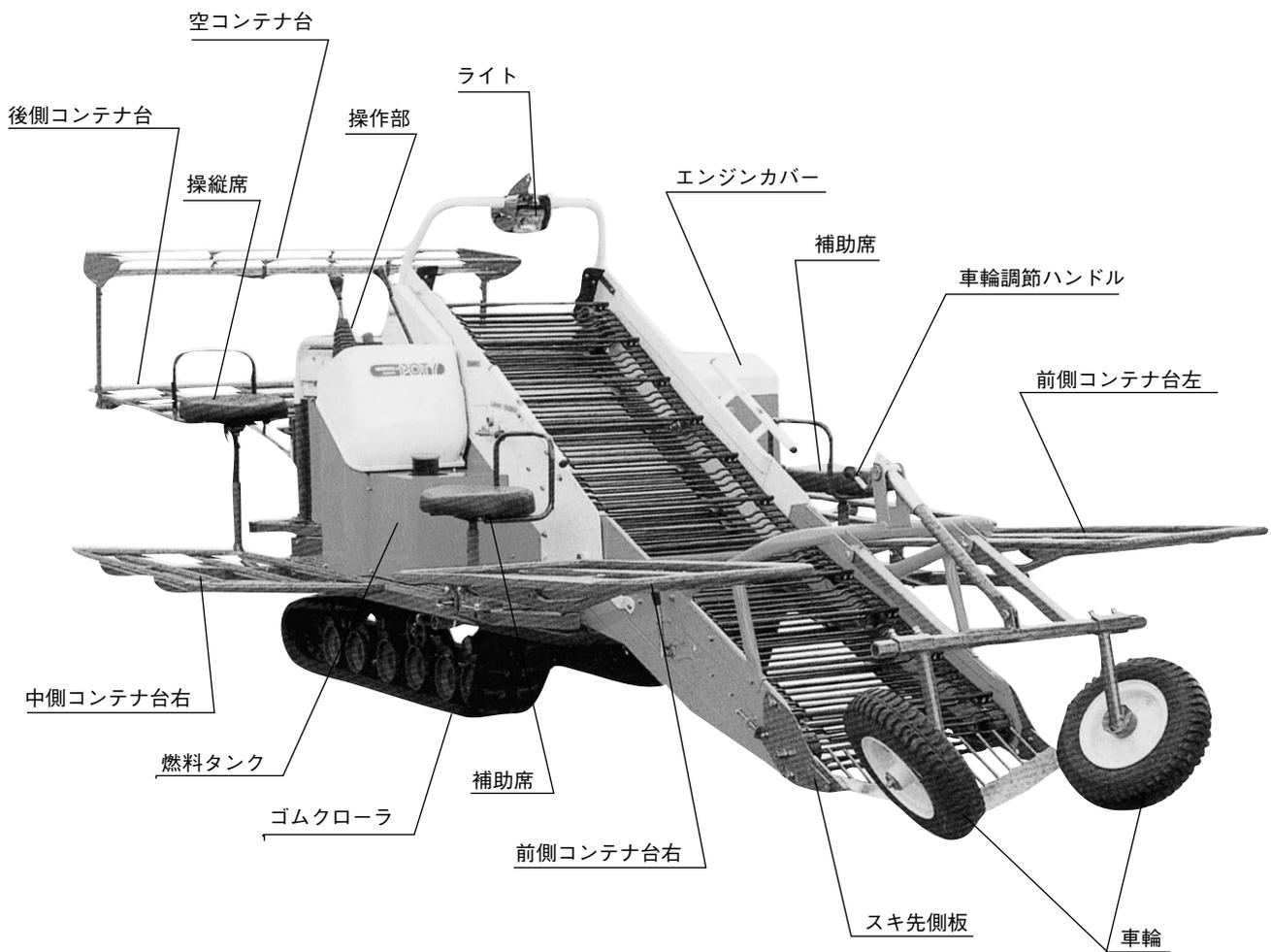
この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打切り後9年といたします。

従いまして、その後のご注文に対しては、在庫限りの供給とさせていただきます。

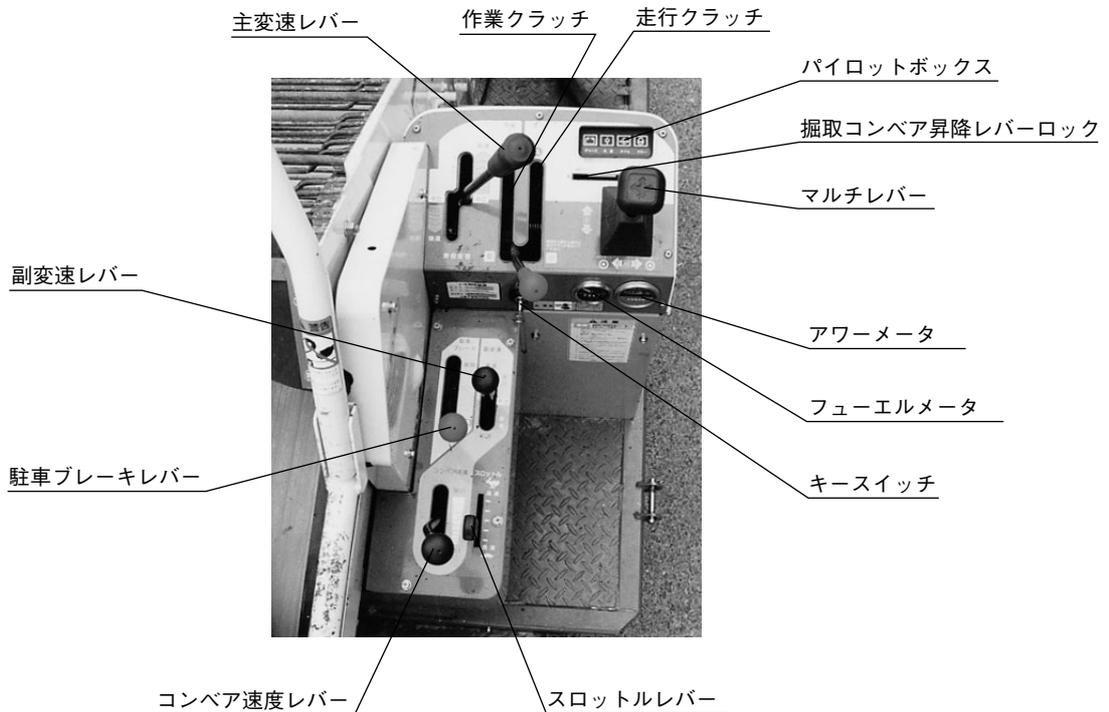
## 純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買求めください。市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

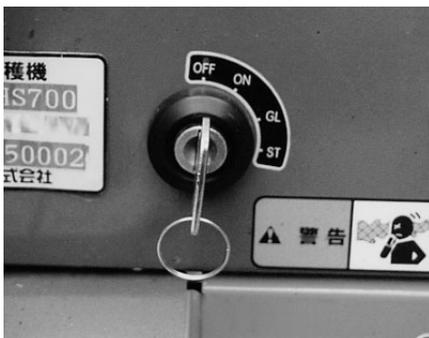
# 各部の名称



# レバー関係の操作方法



## 1. キースイッチ



「OFF」位置… エンジン停止時に使用する。(電流は流れず、キーを抜き取れる。)

「ON」位置……各電装スイッチに電流が流れる。エンジンが停止している場合は、パイロットボックスのオイルランプとチャージランプが点灯する。

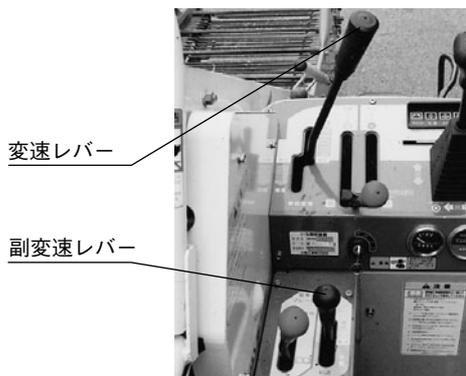
「GL」位置……グローパイロットランプが点灯し、寒冷時での始動を容易にします。ランプが消えたら、スイッチ「ST」位置にします。

「ST」位置……セルモータが回転し、エンジンが始動する。エンジンが始動したらキーから手を離す。キーは自動的に「ON」位置に戻り、連続運転に入る。また、その際にはパイロットボックスのオイルランプとチャージランプは消えます。

## 2. 変速レバー

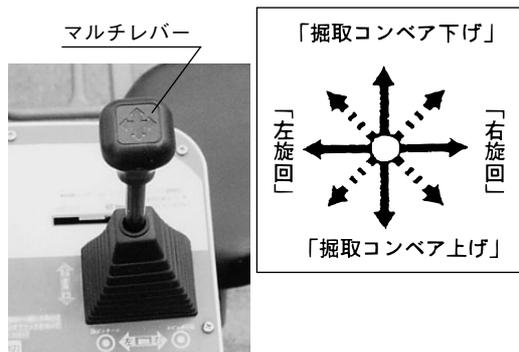
主変速レバーと副変速レバーで速度を調節します。

- 2-1 主変速レバーは、「中立」の位置が中立で、前に押すと前進し、左に倒し手前に引くと後進します。速度は倒す角度によって速くしたり遅くしたりできます。
- 2-2 副変速レバーは、中央が中立で、前に押すと「走行（高速）」に、手前に引くと「収穫（低速）」になります。

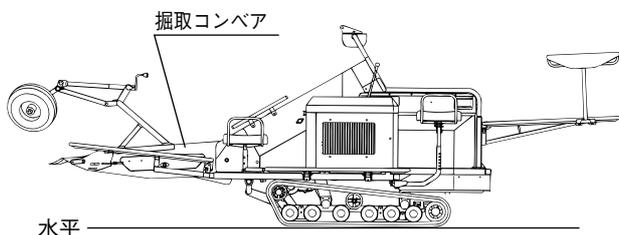


## 3. マルチレバー

- 3-1 方向を変えたり、旋回するときや掘取コンベアを上下するときを使用します。



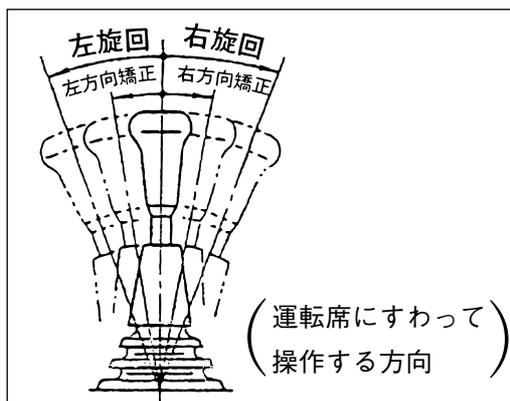
- 3-2 レバーを前に押すと掘取コンベアが下がり、引くと掘取りコンベアが上がります。  
コンベアが作動中、掘取コンベアが水平以上あがると、回転が止まる機構になっています。



- 3-3 レバーを左・右に操作すると、方向修正から旋回までできます。

レバーを少し倒すと普通の旋回（内側クローラが停止して、外側のクローラが回転する）となります。

またレバーを一杯に倒すと左右のクローラが逆転し、その場旋回ができます。



## 4. 掘取コンベア昇降レバーロック

- 4-1 掘取コンベアを上げたときマルチレバーを「下」にすると、掘取コンベアが下がりますので安全のため昇降レバーロックを「ロック」の位置にし、マルチレバーが前後に動かないようにしてください。

### ⚠ 注意

レバーをロックしていても、長時間放置すると掘取コンベア部は少しずつ降下しますので、格納時や点検のときは、付属のロックチェーンで固定してください。



## 5. 走行クラッチ

- 5-1 収穫作業時以外は、クラッチレバーを走行クラッチ側にして、動力の「入」「切」をしてください。手前に引くと「切」、前に押しと「入」になります。



## 6. 作業クラッチ

- 6-1 収穫作業中は、クラッチレバーを作業クラッチ側にして「入」「切」をしてください。作業クラッチを入れると、走行とコンベアが同時に働きます。



- 6-2 作業クラッチ操作は、操縦席と助手席の2カ所があり、操縦席は「入」「切」の操作ができ、助手席は「切」の操作のみできます。



## ▲ 注意

1. 助手席側のクラッチレバーは「切」の操作を行う際、操縦席側のクラッチレバーと同時に動きますので、助手席側のクラッチレバーを動かすときには相手方に注意してください。
2. 作業クラッチを「入」にするときは、必ず副変速レバーが「収穫（低速）」になっていることを確認してから行ってください。

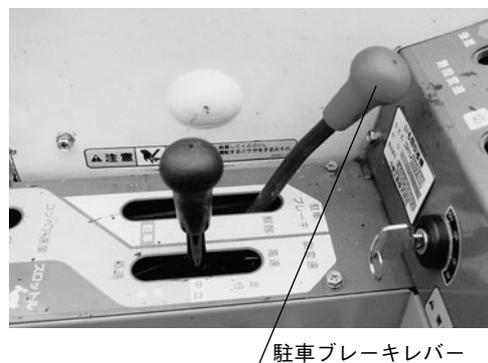
## 7. 駐車ブレーキレバー

- 7-1 駐車ブレーキレバーを手前に引くと駐車ブレーキがかかります。

駐車ブレーキがかかる



駐車ブレーキが解除される



## 取扱上の注意

1. 走行する前には、必ず駐車ブレーキレバーが解除されていることを確認してください。
2. 駐車ブレーキをかけるときには、必ずクラッチレバーが「切」の位置になっていることを確認してください。

## ⚠ 注意

1. クラッチレバーを「入」の状態ですら駐車ブレーキレバーを手前に引くとクラッチレバーは自動的に「切」に戻りますので、駐車ブレーキレバーをかけるときには注意してください。
2. 駐車ブレーキをかけた状態で、クラッチレバーを「入」にすると駐車ブレーキレバーは自動的に解除の位置にもどりますので、クラッチを入れるときには注意してください。

## 8. コンベア速度レバー

- 8-1 このレバーにより、掘取コンベアと選別コンベアの速度が調節できます。

☆印の位置が掘取作業時、標準速度です。作業状態に合わせて調節してください。

コンベア速度レバー



## 9. スロットルレバー

- 9-1 エンジン回転を調節します。

☆印の位置が掘取作業時（標準）のエンジン回転です。



スロットルレバー

## 10. ライト

- 10-1 スイッチは2段式になっております。  
1段引くと前方のライトが点灯します。  
2段引くと前方のライトと後方のライトが同時に点灯します。

ライトスイッチ



## 11. アワーメータ

- 11-1 使用時間を示すメータです。エンジンスイッチを「入」にすると作動します。時間表示は最小桁が1/10時間です。エンジンを停止したとき、エンジンスイッチを「入」のままにしておきますと、メータが積算されますので、必ず「切」にしてください。



## 12. パイロットボックス (警報装置)

- 12-1 各部に異常があった場合にパイロットボックスのランプが点灯します。

### 12-2 グローランプ

エンジンスイッチを回して予熱にするとランプが点灯し、予熱が完了するとランプが消えます。

### 12-3 オイルランプ

エンジンスイッチを「ON」にすると点灯し、エンジンを始動するとランプは消えます。エンジン回転中、オイルランプが点灯するようなときは、すぐにエンジンを停止して不調箇所の原因を調べてください。

### 12-4 水温ランプ

水温ランプは、エンジンが過熱状態になりますと点灯しますので、エンジンが十分冷えてから冷却水量などの点検をしてください。

## 12-5 チャージランプ

エンジンスイッチを「ON」にすると点灯し、エンジンを始動するとランプが消えます。エンジン回転中、チャージランプが点灯する場合は、電気回路に異常があります。すぐにエンジンを停止して不調箇所の原因を調べてください。



## 13. フューエルメータ

- 13-1 燃料の残量を示すメータです。キースイッチを「ON」の位置にすると作動します。



### ▲ 注意

1. 不調箇所の原因を調べるときはエンジンが十分冷えてから行ってください。ヤケドをするおそれがあります。
2. 不備な状態のまま運転しないでください。

# 始業点検

※機械を調子よく長持ちさせるためには、毎日の作業前に必ず行いましょう。

## ▲ 危険

- エンジンが熱い間は、注油・給油を絶対にしないでください。守らないと、ヤケドや火災のおそれがあります。
- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明を絶対にしないでください。守らないと、火災の原因になります。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。守らないと、こぼれた燃料に引火して、ヤケドや火災のおそれがあります。

## ▲ 警告

- 点検・整備・調節を行うときは、平坦で安定した場所で行ってください。守らないと、思わぬ事故の原因になります。
- 点検・整備・調節を行うときは、必ずエンジンを停止させ、駐車ブレーキをかけてください。守らないと、回転部に巻き込まれたり、思わぬ事故の原因になります。

## 1. 作業時の体調：服装について

### 1-1 体調

作業を行うときは、健康な状態で行ってください。過労・病気・薬物の影響、その他の理由で作業に集中できないときには、作業を行わないでください。

特に、お酒を飲んで酔っている・妊娠している・18才未満の人は作業を行わないでください。

### 1-2 服装

- 操作レバーや機械部品に引っかからない、だぶつきのない服装をしてください。
- 安全靴などのすべり止めの付いた靴を着用してください。
- ヘルメットを着用してください。
- 作業によっては、保護メガネ・マスク・手袋などの保護具を必ず着用してください。
- タオルをはち巻き・首巻き・腰にはさんで作業を行わないでください。

## 2. 本機の点検のしかた

### 2-1 機械のまわり

- 1) 各部の変形・損傷・汚れ・ボルトのゆるみを点検します。
- 2) クローラの損傷・ゆるみ……………46ページ
- 3) コンベアの調整……………50ページ
- 4) チェーン・ベルトのたるみ・損傷…52ページ

### 2-2 エンジン

- 1) エンジンオイル点検・交換……………41ページ
- 2) 冷却水の点検・補給……………45ページ
- 3) エアクリーナーの点検・補給……………43ページ
- 4) 冷却ファンベルトの点検……………44ページ
- 5) 防塵網・ラジエータの点検・清掃…44ページ
- 6) 燃料補給・点検・清掃……………40ページ

### 2-3 運転装置

スイッチ・パイロットボックス（警報装置）の作動・点検……………19ページ

### 2-4 エンジン始動後

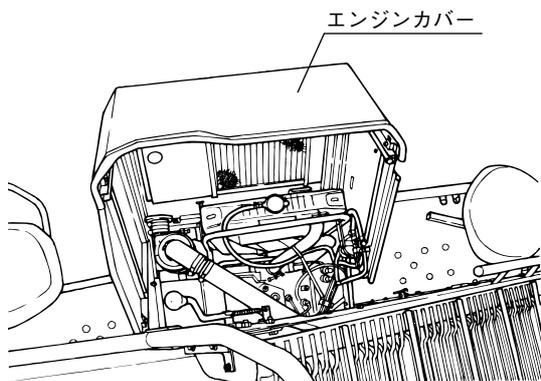
- 1) エンジン始動後の異音・排気ガスの色に注意して不調診断をしてください。（燃料に水の混入など）
- 2) クラッチ・各レバーの作動状態……………52ページ

# 上手に作業するには

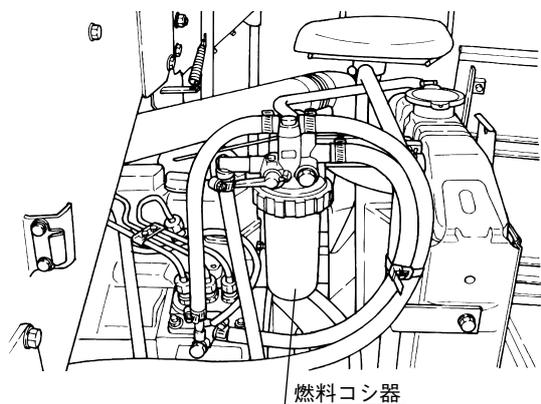
## 1 運転の要領

### 1. 始動のしかた

1-1 エンジンカバーをオープンにしてください。



1-2 燃料コシ器の燃料コックを「開」の位置にしてください。



1-3 エンジンカバーを元にもどしてください。

1-4 作業クラッチ、走行クラッチを「切」にしてください。



### 取扱上の注意

「切」になっていないと、セルモータが回らない構造になっています。

1-5 主変速レバーを中立位置にしてください。



1-6 スロットルレバーを「低速」「高速」の真ん中の位置にしてください。



1-6 キースイッチを「GL」の位置まで回し、グロランプが点灯しているか確認します。

1-7 そのままの状態でごランプが消えたらキースイッチを「ST」位置にします。

### 取扱上の注意

セルモーターは大電流を消費しますので、10秒以内で始動しなかった場合は、いったんスイッチを切って、1分以上休止してから再度始動させてください。

1-8 エンジンが始動したら、すぐにキーから手を離します。このときパイロットボックスのオイルランプとチャージランプが消えたことを確認してください。

1-9 エンジン始動後アクセルレバーを「低速」に戻し、約5分間は負荷をかけないでエンジンをかけたままにします。

### 警告

- エンジンの始動および暖気運転は、閉めきった屋内で行わないでください。やむを得ず屋内で始動する場合は十分換気をしてください。排気ガスによる中毒で死亡事故につながるおそれがあります。

### 注意

- エンジンを始動する前に、運転前・作業前の点検を行ってください。点検せずにエンジンを始動すると、整備不良のために傷害事故や機械の故障を引き起こす場合があります。
- エンジン始動前は、レバーの位置と周囲の安全を確認してください。急に機械が動きだして、傷害事故の原因になります。
- 必ず運転席に座ってエンジンを始動してください。無理な姿勢でエンジンを始動すると転倒や障害事故の原因になります。
- エンジン回転中は、絶対にキースイッチを「ST」位置にしないでください。守らないと、機械が損傷することがあります。

## 2. 発進のしかた

2-1 主変速レバーを中立位置に、副変速レバーを「収穫（低速）」または「走行（高速）」にしてください。

### 注意

副変速レバーが「走行（高速）」の位置にある場合は、急発進する恐れがありますから、必ず主変速レバーを中立位置にしてください。また、周囲の安全を確かめて発進してください。

2-2 駐車ブレーキを解除してください。

2-3 クラッチレバーを走行クラッチ側にして「入」にします。

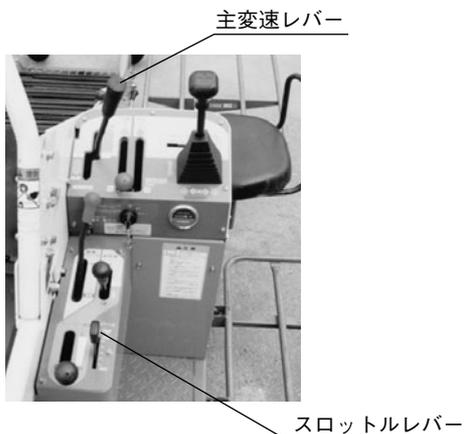


2-4 主変速レバーを前進または、後進にゆっくりレバーを倒してください。



### 3. 走行のしかた

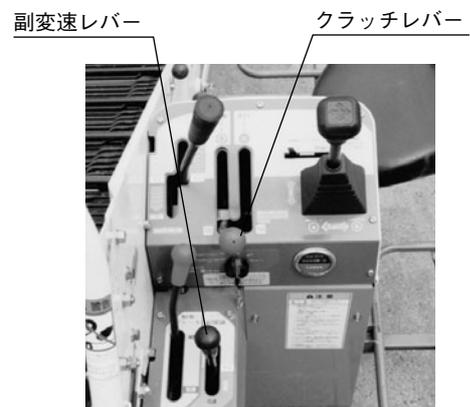
3-1 走行中は、主変速レバーとスロットルレバーでスピードを調節してください。



3-2 「走行」と「収穫」の切り換えは、走行クラッチを「切」にした状態で行ってください。

#### ⚠ 警告

急な坂道では「走行 (高速)」「収穫 (低速)」の切り換えは絶対にしないでください。  
公道は走行しないでください。  
移動時、運転者の他に人を乗せないようにしてください。



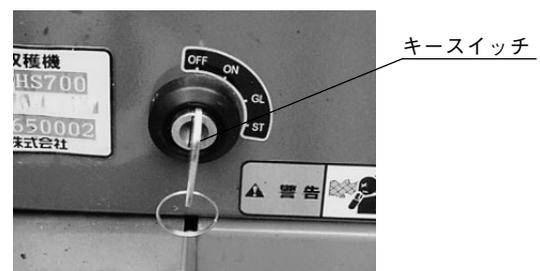
### 4. 停止のしかた

4-1 主変速レバーを「中立」の位置にしてください。

4-2 走行クラッチを切ってください。

4-3 スロットルレバーを「低速」まで戻し、約5分間、負荷をかけずに運転してください。

4-4 キースイッチを「OFF」の位置にしてください。



- 4-5 燃料コシ器の燃料コックを「閉」の位置にしてください。

### 取扱上の注意

主変速レバーで「前進」から「後進」、「後進」から「前進」に変速する場合は、必ず機体が完全に停止してから行ってください。動いているときに行くと機械が破損することがあります。

## 5. 旋回のしかた

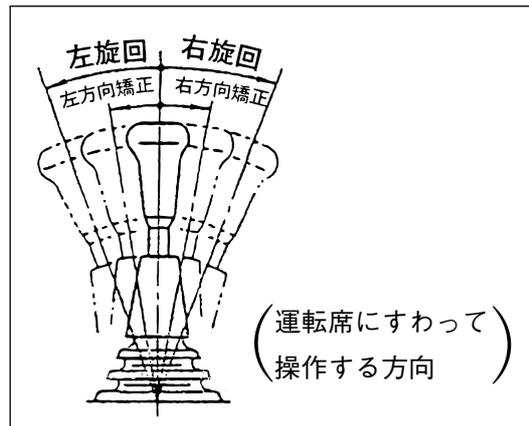
- 5-1 副変速レバーを「収穫（低速）」にしてください。
- 5-2 曲がりたい方向にマルチレバーを倒してください。



マルチレバーは軽く倒すとクラッチが切れ、それから旋回用ブレーキが効き始めます。強く倒すと、ブレーキを完全にロックすると片側のクローラが逆転してその場旋回（スピントーン）となります。

マルチレバーを加減しながら（ブレーキを少しすべらしながら）効かすと、片側のクローラを止めて旋回となります。

レバーの倒し量に応じて、ゆるやかな方向修正からコーナ旋回まで、条件に合わせて操作してください。



- 5-3 副変速レバーを「走行（高速）」で使用する場合は、その場旋回（スピントーン）はせず、クローラが逆転しない程度にマルチレバーを倒して大きく回ってください。
- 小さく回る必要がある場合は、副変速レバーを「収穫（低速）」にしてから、その場旋回（スピントーン）を行ってください。

### ⚠ 警告

- ① 旋回する場合は、機体の前後左右に十分注意して行ってください。特にその場旋回（スピントーン）のときは、後方が大きく動きますので、後方の確認を十分行ってください。
- ② 「走行（高速）」でのその場旋回（スピントーン）は、たいへん危険な上、機械にも大きな負担がかかり、故障の原因となりますので、その場旋回をする場合は、必ず「収穫（低速）」に切り換えて行ってください。

## 6. 傾斜地、坂道の駐車

### ⚠ 警告

傾斜地や坂道での駐車はしないでください。やむを得ず駐・停車するときは、駐車ブレーキをかけ、クローラに歯止めをしてください。

## 7. トラックへの積み降ろし

### 7-1

- ① トラックは、平坦で安定した場所で、交通などの危険がなく、作業が十分に行える広さの場所に停車してください。
- ② トラックの変速は「P」または「1速」・「R」の位置に入れ、駐車ブレーキをかけてください。
- ③ タイヤに車止めをしてください。
- ④ トラックの荷台に丈夫な滑り止めをしたアユミ板を、ゴムクローラのトレッドに合わせて確実に固定してください。  
またその際にトラックの荷台とアユミ板のフックに段差ができないようにしてください。

#### ▲ 警告

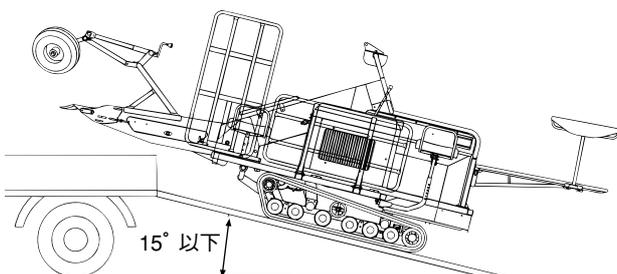
1. 積み・降ろしをする場所は、平坦で安定した交通などの危険がない場所を選んでください。
2. 積込むトラックは、車止めなどで動かないように処置してください。

#### ▲ 警告

クローラに土が付着すると滑りやすくなりますので危険です。

#### ▲ 警告

アユミ板は傾斜が $15^{\circ}$  以内またはトラックの荷台の高さの3.5~4倍の長さのものを使用してください。傾斜がきつくなりますと大変危険です。



7-2 周囲に人がいないことを確認してください。

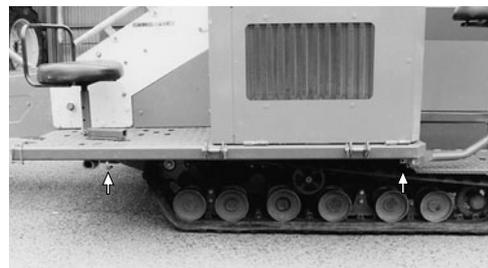
7-3 本機・前側の左右コンテナ台は収納し、中側の左右コンテナ台も収納し、後側コンテナ台・空コンテナ台は作業状態にしてください。

7-4 掘取コンベアは前後のバランスを見ながらアユミ板に接触しない程度に持ち上げ、前後のバランスを見ながら持ち上げ量を調節してください。

7-5 機械をアユミ板にまっすぐ合わせ、「収穫（低速）」で積込みをしてください。

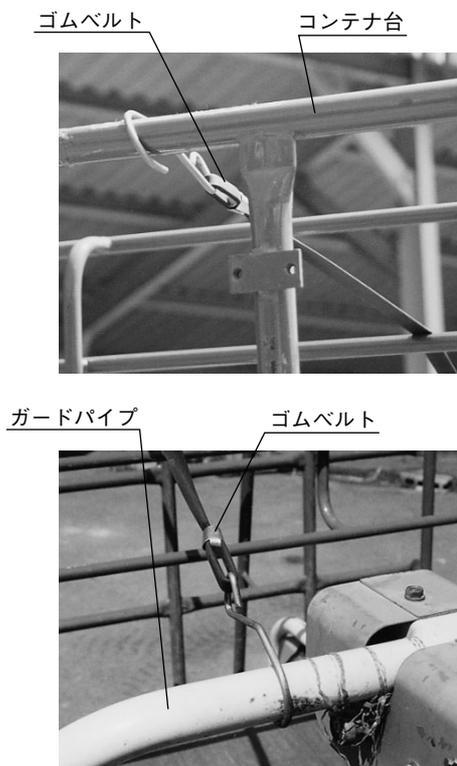
#### ▲ 警告

1. 本機は構造上、重心が前にあります。したがって、積込みは必ず「前進」で、積み降ろしは「後進」で行ってください。
2. アユミ板の途中で、副変速レバーの「走行（高速）」「収穫（低速）」への切り換えは絶対にしないでください。
3. アユミ板の途中で方向を変えたり、止まったりしないようにしてください。
4. 本機に乗車したまま、積み降ろしをしないでください。



左右のフック位置

- 7-7 積込んだら駐車ブレーキをかけ、燃料コックを閉めて後側コンテナ台を収納し、本機フックとすべてのコンテナ台にロープをかけてしっかりと固定してください。  
またその際に本体付属のゴムベルトをガードパイプとコンテナ台に固定してください。



### ⚠ 警告

後側部コンテナ台収納時は、ピンが差し込まれてロックされていることを確認してください。ロック状態になっていないとコンテナ台が落下して危険です。

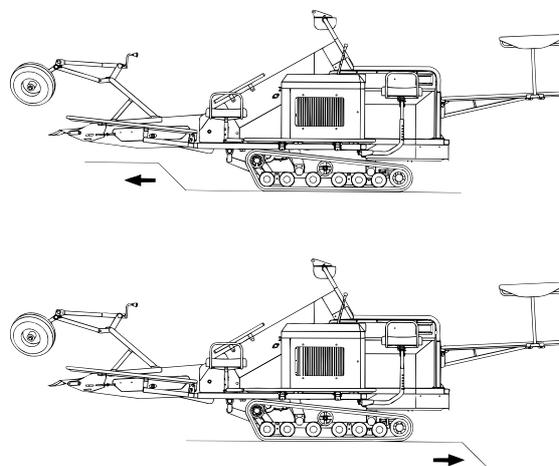
すべてのコンテナ台にロープをかけて、固定と落下防止をして駐車ブレーキをかけてください。

守らないとトラックのブレーキを急にかけたとき、機械が荷台から転落し、思わぬ傷害事故の原因になります。

- 7-9 積み降ろしについては、積込みと同じ要領で行ってください。

## 8. 圃場への出入り

- 8-1 圃場に入るときは、必ず速度を下げ、掘取コンベアを地面と接触しない程度に下げて、圃場に対して直角に出入りしてください。
- 8-2 本機は構造上、重心が前にありますので、圃場が道路より低い場合は後ろから、道路より高い場合は前から入ってください。  
また出る時は、圃場が道路より低い場合は前から、道路より高い場合は後ろから出てください。



- 8-3 急な斜面の場合、転倒する危険があります。その場合、掘取コンベアを下げ、バランスを良くしてゆっくり出入りしてください。

### ⚠ 警告

1. 急な傾斜地の場合、または溝越えなどの場合は、必ずアユミ板を使用してください。また、危険ですので乗車しないでください。
2. あぜや段差に対して斜め方向に進むと、横滑りや転倒する危険があります。

## 9. 傾斜地での走行

9-1 傾斜地での走行は、平坦地に比べ特に危険です。

速度を下げ安全に運転してください。

9-2 急発進、急停止、旋回等は転倒の危険があります。ゆっくり操作を行ってください。

9-3 本機は構造上、重心が前にあります。したがって急傾斜地の登りは前進で行い、下りはバックで走行してください。さらに転倒の危険がある場合、掘取コンベアを降ろし、重心を下げるのも安全走行の有効な手段です。

### ▲ 警告

急な傾斜地や悪路では危険ですので機械に乗らないで歩きながら運転してください。

## 2 作業の要領

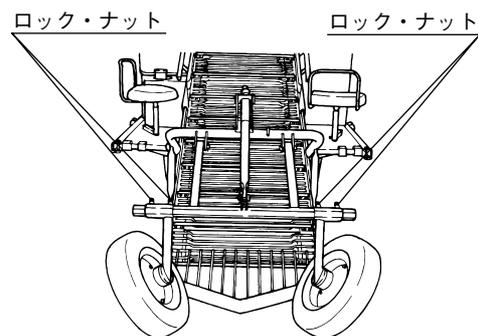
### 1. 車輪の調節

#### 取扱上の注意

車輪は掘取り深さの安定と、本機をうねにそって自動走行する働きをします。必ずうね幅に合わせて取付幅を調節してください。

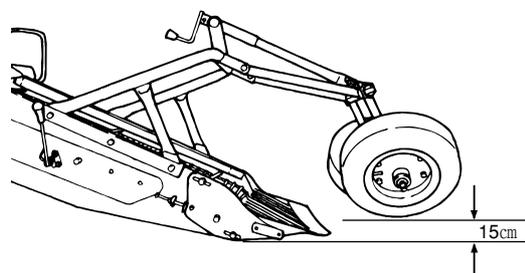
#### 1-1 うね幅の調節

車輪左右スライド部のロックナット・ボルトをゆるめ、ゴム車輪の内側がうね幅と同じになるよう左右均等に調節して、ロックナット・ボルトを締めてください。



#### 1-2 掘取り深さの調節

水平な場所で、掘取コンベアが軽く地面に着いた状態で、車輪の下端の高さが約15cmになるよう、ハンドルを回し調節してください。



#### 取扱上の注意

ここでの調節は、収穫作業をするための準備が目安です。

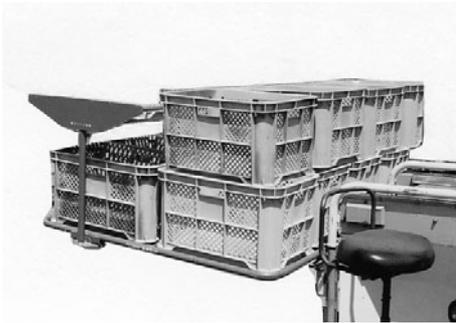
## 2. コンテナの配置

### 2-1 後方のコンテナ配置

選別法方に合わせて、セットしてください。

#### 取扱上の注意

最大積載重量240kgを越えないよう注意してください。



### 2-2 空コンテナ台

空コンテナを積んでください。

#### 取扱上の注意

空コンテナ専用です。  
空コンテナ以外は積まないでください。

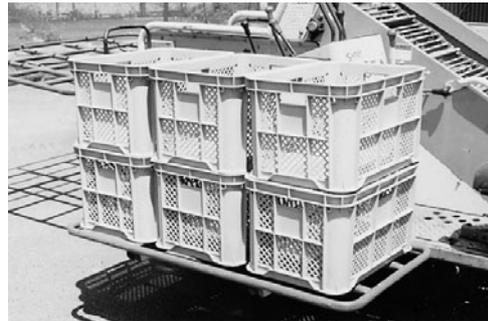


### 2-3 中側左右コンテナ台

選別法方に合わせてセットしてください。

#### 取扱上の注意

左右のコンテナ台の最大積載重量は、片側120kgまでです。



### 2-4 前方左右のコンテナ台

選別法方に合わせてセットしてください。

#### 取扱上の注意

前方左右のコンテナ台の最大積載重量は、片側80kgまでです。



#### ▲ 注意

移動時は危険ですので、コンテナ台は必ず収納してください。

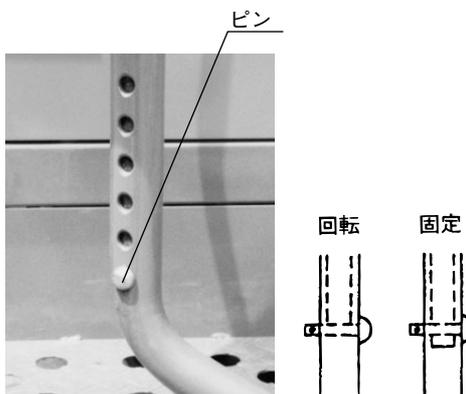
各コンテナ台は最大積載重量以下で前後左右バランスよく積んでください。片荷での積載は破損の原因となります。

### 3. 座席の調節

#### 3-1 高さの調節（操縦席・助手席・補助席）

楽な作業姿勢になるようにピンを差し込み、いすの高さを調節してください。

その際、いすの回転を固定したい場合は、内側のパイプの穴にもピンを通します。



#### 3-2 前後の調節（操縦席・補助席）

楽な姿勢、また乗降がスムーズにできるよう、いすの前後調節ができます。

操縦席、助手席はロックナットをゆるめて、ボルトを回してください。右に回せば前に、左に回せば後ろへ動きます。

ボルトの調節が終われば、必ずロックナットを締めてください。



#### 3-3 角度の調節（操縦席・助手席）

操縦席、助手席は作業姿勢に合わせて、いすの角度が通常的位置と傾いた位置と3段階に変えられます。



ノブボルト



ノブボルト



ノブボルト

#### 3-4 移動時

移動の際は操縦席が動かないように、付属のロックピンを差し込み固定してください。

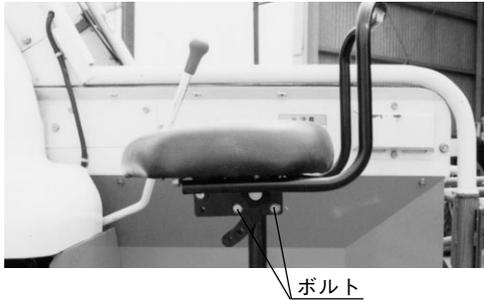
（また、助手席、補助席は格納し乗車しないでください。）



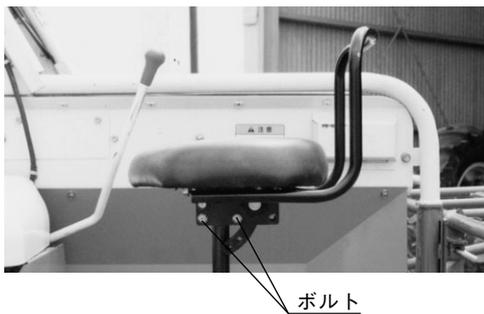
ロックピン

### 3-5 移動時前後調節

移動の際操縦席のいすのみ前後調節をすることができます。  
組立て時、いすが前にくるようにセットされています。



使用に応じて、いすを後ろにし、セットすることも可能です。



## 4. 掘取作業

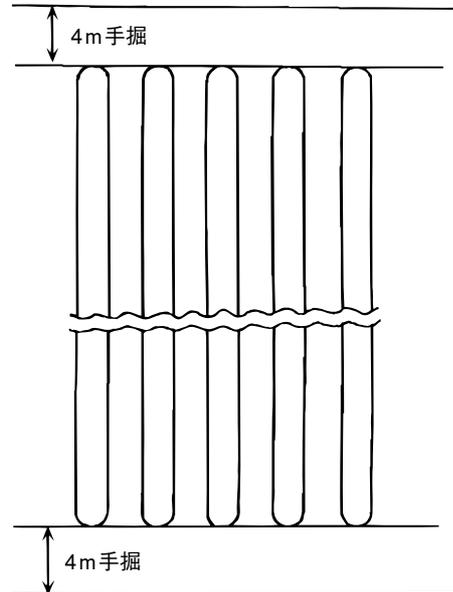
4-1 掘取作業をする前には、次の作業が必要です。

- ① つる切り・つまくり・マルチはぎ、またはつま刈り・マルチはぎ等の前作業を行ってください。

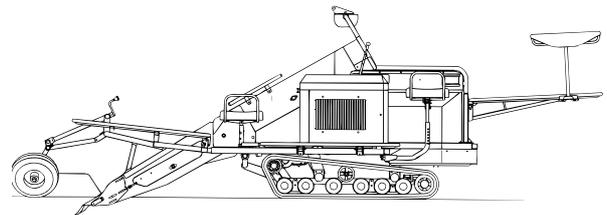
### ▲ 注意

マルチはぎ作業は、圃場内にマルチフィルムが残らないように全部とってください。特に、長いまま残っていると回転軸などに巻きついて危険ですし、機械の破損の原因にもなります。

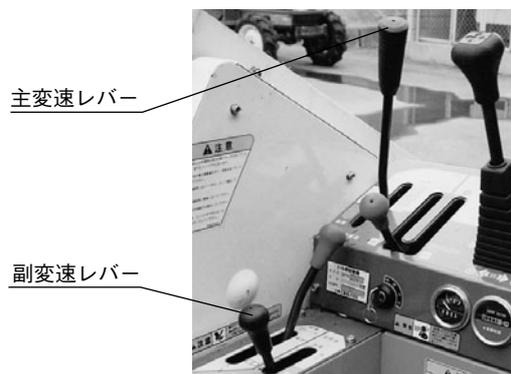
- ② 機械掘り作業では、圃場の両端に掘取り機が旋回するための枕地が必要です。あらかじめ圃場の両端約4mを手で掘り、拾い集めておいてください。



- 4-2 作物のうね中心と、掘取コンベア中心が合うように圃場に入り、マルチレバーを前に押し、コンベアを地面より15cmぐらいの高さで止め、掘り始め手前約30cmでクラッチレバーを「切」にして、一旦停止して作業の準備をします。

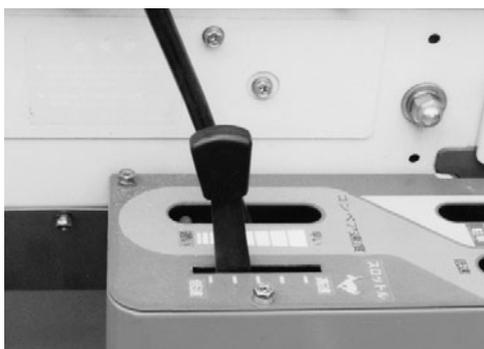


- 4-3 副変速レバーを「収穫（低速）」に、主変速レバーを「中立」位置に合わせてください。



- 4-4 コンベア速度レバーを☆印の標準位置に合わせてください。

- 4-5 スロットルレバーの中心を☆印の標準位置に合わせてください。



- 4-6 以上で作業準備ができました。掘取作業を開始しましょう。



## ⚠ 注意

これから2人以上の機械掘取作業となりますので、互いに合図をしながら安全を確認して、操作してください。

クラッチレバーを作業クラッチ「入」にし、主変速レバーを徐々に前進側に倒していくとコンベアの回転と同時に低速走行を開始します。



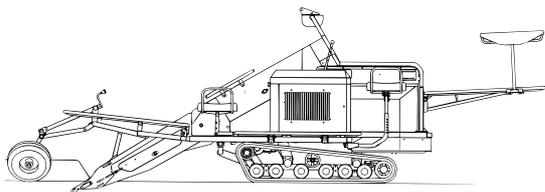
マルチレバーを前方に倒し、コンベア先端をうねに入れていきます。

## 取扱上の注意

掘取コンベアを急にうねへ入れすぎると、コンベアに無理な力が掛かり、コンベアがストップすることがありますが、故障ではありません。一旦コンベアを少し上げ回転し始めたら、ゆっくりと下げてください。

- 4-7 コンベアが下がり車輪がうねに接地したら、マルチレバーより手を離し中立にします。機体前方が上がるほど、掘取コンベアを下げるとコンベア角度が急になり、作物のころがりが多くなり、また機械にも無理な力がかかります。

目安として掘取コンベアがまっすぐになる程度に、掘取コンベアを調整してください。



- 4-8 掘取深さが浅く、作物を切ったり、掘り残しがあるときには、車輪調節ハンドルを右に回して車輪を上げ、マルチレバーを少し「下」にして、掘取深さを深くしてください。

車輪調節ハンドル



掘取深さを必要以上に深くすると、作物のころがりや土の持ち上げ量の増大で、選別作業が難しくなり、作業抵抗も増大しますので、必要以上深くしないで作業してください。

- 4-9 コンベア速度レバーを「早い」にすると、コンベアの速度が速くなり、土の持ち上げ量が少なくなり、選別作業がし易くなりますが、作物に傷がつき易くなります。「遅い」にすると、速度は遅く土の持ち上げ量が多くなり、作物に傷がつきにくくなります。

適量の土が上がり、作物が傷つかない速度に調節してください。

コンベア速度レバー



#### 4-10 振動レバー

このレバーでコンベアの前方、後方の振動の「入」「切」を行います。後ろに倒すと振動装置が作動しコンベアを振動させ、前に倒すと振動が停止します。



土の上がり量によって、前方、後方の振動を「入」「切」して調節してください。

- 4-11 作業速度が速く選別作業に余裕がないときには、主変速レバーを少し手前に引いて車速を遅くし、選別作業に余裕があり能率を上げたときにはレバーを少し前に押しして速くしてください。



主変速レバーを操作して車速を変えると土の持ち上げ量も変化します。

再度土の持ち上げ量が適量になるようにコンベア速度レバーを調節してください。

スロットルレバーでエンジンの回転数を変えると、車速とコンベア速度は比例して変わりますので、容易に調節ができます。

- 4-12 作業中に石かみ等でコンベアが止まったときには、直ちにクラッチレバーを「切」にして、次の手順で石を取除いてください。

### ▲ 警告

コンベアを上げ点検するときは、不意なコンベア降下を防ぐため、昇降レバーロックを「ロック」の位置にし、マルチレバーが前後に動かないようにしてください。

また、各部点検時には、エンジンが完全に停止後行ってください。

クラッチレバーを走行クラッチ「入」に倒して、主変速レバーを後ろへ倒し機体を後退させ、マルチレバーを「上」に倒し、掘取コンベアを上げて、コンベア昇降レバーロックをしてエンジンを必ず停止してから石を取り除いてください。

又、掘取コンベア下アンダーカバーや、掘取コンベア両サイドフレームに土が付着し、コンベア回転の障害になるときにも同じ要領で付属の「土落とし棒」等を使用し土を落としてください。



### 取扱上の注意

特に、コンベア両サイドフレームに土が付着したまま使用しますと、コンベアの摩耗や破損の原因になりますので、土を落としてください。

- 4-13 一うねの収穫作業の終わりがきたら、マルチレバーを「上」にして、コンベアの作動が自動的に止まる水平ぐらいまで上げて、クローラが枕地の中央まで進んだら、マルチレバーを左・右に操作して、次のうねへ入り作業を始めてください。

### ⚠ 警告

コンベアは約水平以上上がると、自動的に作動が停止し、下げると作動を開始しますので、コンベアには手など巻き込まれないように注意してください。

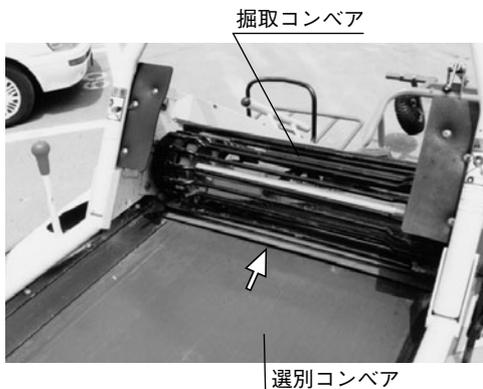
また、コンベアを下げるときには、互いに合図しながら安全を確認して操作してください。

## 5. 選別作業

5-1 作物の選別は、選別コンベア上で行ってください。

### ⚠ 警告

掘取コンベアと選別コンベアの間は、危険ですので手を入れないでください。



5-2 作物がコンベア間にはさまれる場合がありますが、取出す際にはエンジンを停止し、安全を確認して取出してください。

### ⚠ 警告

万一緊急異常が発生した場合は、すぐに作業クラッチを切ると共に、エンジンを停止してください。

## こんなトラブルが起こったら

**▲ 注意** 点検整備時は、エンジンを止め、各部が完全に停止してから行ってください。  
また、機体は平らで固い場所を選び、いつでも危険を避けられる態勢で行ってください。

### どのような状態ですか

1. スタータが回転しないときには
2. スタータが回転してもエンジンが始動しないときには
3. エンジンの力が出ないときには
4. 掘取コンベアが上がらないときには
5. 掘取コンベアが作動しないときには
6. 選別コンベアが作動しないときには
7. 走行クラッチレバー、作業クラッチレバーを「入」にしても走行しないときには
8. マルチレバーを倒しても旋回しないときには

	こんな確認をして	→	こう処理します
スタータが回転しないときには	1. 走行クラッチレバーと作業クラッチレバーが「切」になっていますか 2. セーフティスイッチが作動していませんか、取付けが緩んでいませんか 3. バッテリ接続部が緩んでいたり、外れたり腐食していませんか 4. バッテリが放電していませんか 5. 冷却ファン・ジェネレータ駆動ベルトが切れているか、緩んでいませんか	→ 走行クラッチレバーと作業クラッチレバーを「切」にし、キースイッチを「始動」に回してください。 → 調節ボルトの調節、確実に取付けてください → 接続部を清掃し、確実に取付けてください → バッテリを満充電してください → Vベルトの張りを調節するか新しいVベルトと交換してください	
スタータが回転してもエンジンが始動しない	1. 燃料が切れていませんか 2. 燃料フィルタが目づまりしていませんか	→ ディーゼル軽油を給油してください → 燃料フィルタを清掃してください	
エンジンの力が出ないときは	1. エアークリーナが目づまりしていませんか 2. 燃料が不足していませんか 3. エンジンオイルが不足していませんか	→ エアークリーナを清掃、交換してください → 燃料系統をチェックしてください → エンジンオイルを規定量まで給油してください	
掘取コンベアが上がらない時には	1. エンジン回転が不足していませんか 2. 掘取コンベアが深く入り過ぎていませんか 3. 油圧タンクのオイルが少なくなっていますか	→ エンジン回転を少し上げてください → 後進してから油圧を上げてください → 油圧タンクのオイルを規定量入れてください	
掘取コンベアが作動しないときには	1. コンベアが水平以上に上がっていませんか 2. テンションクラッチが緩んで、Vベルトがずべていませんか 3. 掘取コンベアが深く入りすぎていませんか 4. 石、いも等がかみ込んでいませんか 5. コンベアが伸びていませんか 6. コンベア駆動用チェンが外れていませんか 7. HSTのオイルが少なくなっていますか	→ コンベアを下げてください → Vベルトの張りを調節するか新しいVベルトと交換してください → 車輪を下げて浅くしてください → かみ込み物を取除いてください → コンベアを張ってください → コンベア駆動用チェンを取付けてください → HSTオイルを規定量入れてください	

	こんな確認をして	→	こう処理します
選別コンベアが 作動しないときには	1. コンベアベルトが伸びていませんか 2. コンベア駆動用チェンが切れていませんか 3. コンベア駆動用チェンが外れていませんか 4. 選別コンベアベルト内部に土が侵入していませんか	→ → → →	コンベアベルトを調節ネジで張ってください 新しいチェンと交換してください コンベア駆動用チェンを取付けてください 選別コンベア内部・ローラの土を取除いてください。
走行クラッチレバー・作業クラッチレバーを 「入」にしても走行しないときには	1. 走行Vベルトが緩んでいませんか 2. 走行Vベルトが切れていませんか 3. 変速レバーが中立になっていませんか 4. 掘取コンベアが深く入り過ぎていませんか 5. 変速レバーが戻っていませんか 6. 変速レバーが緩んでいませんか	→ → → → → →	Vベルトの張りを調節してください 新しいVベルトと交換してください 変速レバーを低速または高速に入れてください 掘取コンベアの深さを適正にしてください 変速レバーをゆっくり動かしてください 支点のネジを緩めて調節してください
マルチレバーを 倒しても旋回しないときには	1. ブレーキがきかずにスリップしていませんか 2. クラッチが切れていますか 3. 走行Vベルトが緩んでいませんか 4. 変速レバーが戻っていませんか 5. 変速レバーが緩んでいませんか 6. 油圧タンクのオイルが少なくなっていますか	→ → → → → →	ブレーキがきくように調節してください クラッチが切れるように調節してください Vベルトの張りを調節してください 変速レバーをゆっくり動かしてください 支点のネジをゆるめて調節してください 油圧タンクのオイルを規定量入れてください

# 定期点検

## ⚠ 警告

1. 点検・整備・調節をするときは、交通の危険がなく、平坦で安定した場所で行ってください。守らないと、機械が転倒するなど、思わぬ事故の原因になります。
2. 点検・整備をするときは、エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、各レバーを「切」位置にして、回転部の停止を確認してから行ってください。守らないと、回転部に巻き込まれたり、重大な事故の原因になります。
3. 掘取コンベアを上げての点検・整備・調節をするときは、必ず昇降レバーロックを「ロック」の位置にして、掘取コンベアを固定してください。
4. 室内で点検・整備をするときは、換気を十分に行ってください。エンジンの排気ガスで中毒を起こすおそれがあります。
5. 複数で作業するときは、安全を確保するために、キースイッチのキーを抜いてください。

## ⚠ 注意

- 点検・整備をするときは、過熱部分が十分に冷めてから行ってください。ヤケドをするおそれがあります。
- カバーを外して点検・整備したときは、必ずカバーを元通りに取付けてください。元通りに取付けないと、回転部に巻き込まれたり、傷害事故を起こす原因になります。

## 1. 定期点検・整備の時期について

- 1-1 機械の整備不良による事故などを未然に防止するために、又、来シーズン安心してポティを使って頂くために、1シーズンごとにお買い上げ頂いた販売店で有料点検・整備を受け、各部の安全を確保してください。

## 2. 定期点検一覧表

区分	項目	運転時間と定期点検内容		備考	参照ページ
		ヤンマーディーゼルエンジン	クボタディーゼルエンジン		
エンジン	燃料タンク油量点検補給	毎作業前点検内容		ディーゼル軽油	40
	燃料タンクドレン抜き	50時間毎点検			40
	燃料コシ器エレメント洗浄	200時間毎点検 400時間毎交換	50時間毎清掃 450時間毎交換		41
	エンジンオイルの点検	毎日点検・補充 初回50時間交換以降 200時間毎交換	毎日点検・補充 初回50時間交換以降 100時間毎交換	CC級以上	41
	オイルエレメント交換	初回 50時間交換 以降 400時間毎交換	初回 50時間交換 以降 200時間毎交換		43
	パイプ・ホース類の点検	2年毎交換			44
	エアクリーナの点検	50時間毎点検、400時間毎交換			44
	冷却水の点検・補給・交換	毎日点検・補充 ワンシーズン毎交換	毎日点検・補充 450時間毎清掃		45
走行部	走行ミッションオイルの点検	毎シーズン初め点検・補充 300時間毎交換		ギヤーオイル#90	47
	ゴムクローラの点検	適時点検・調節			48
	HST油圧オイルの交換	1年または500時間毎交換		昭和シェルオイル （フリートマルチ リムラX ロードレックス等） 10W-30 CD級以上	48
収穫部	掘取コンベアの点検	適時点検・調節			49
	選別コンベアの点検	適時点検・調節			51
	選別コンベアベルト内部の点検	50時間毎（毎週）点検・清掃			52
	コンベア駆動チェン	適時点検・注油			53
	コンベア下部軸受	毎シーズン初めにグリス補給			50
その他	各ベルトの点検	適時点検・調節			60
	各クラッチの点検	適時点検・調節			53～54
	バッテリーの点検	インジケータが黒色になったら充電			56
	パイロットボックスの作動点検	毎作業前点検内容			19

※エンジンについては、エンジンの取扱説明書をお読みください。

### 3. 燃料の点検・補給

#### ⚠ 危険

- 燃料の点検・補給をするときは、くわえタバコや裸火照明を絶対にしないでください。燃料に引火して、火災を起こす原因になります。
- 燃料の補給をしたときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。守らないと、火災やヤケドの原因になります。

#### 3-1 燃料の残量点検

燃料の残量は、キースイッチを「ON」にして、フューエルメータで確認してください。



フューエルメータ

#### 3-2 燃料の補給

燃料キャップを取外し、燃料をフィルタから液面が見え始めるまで補給してください。



燃料タンク

### 4. 燃料タンクのドレン抜き

燃料タンクの底部には、水やゴミが沈殿しています。これらの沈殿物が燃料ポンプに入ると不具合の原因になりますので、定期的に取り除いてください。

#### 4-1 ドレン抜き

1. 燃料タンク下部にあるドレンボルトの下に、燃料を受ける容器を置いてください。
2. ドレンボルトを取外してください。  
燃料が流れ出て、タンク内の沈殿物が排出されます。



ドレンプラグ

3. 排出後、ドレンボルトを取付けてください。

## 5. 燃料の空気（エア）抜き

燃料タンクが空になったり、燃料系統に空気が入るとエンジンは止まります。下記の要領で空気抜きをしてください。

### 5-1 空気（エア）抜き

- ① 燃料を満タンにしてください。
- ② キースイッチを「ON」位置にしたまま20～30秒待ち、「ST」位置にしてください。自動的に空気抜きが行われ、エンジンが始動します。



キースイッチ

## 6. 燃料コシ器エレメントの点検・掃除・交換

作業は、エンジンカバーをはずしてから行ってください。作業終了後は、元通りにセットしてください。

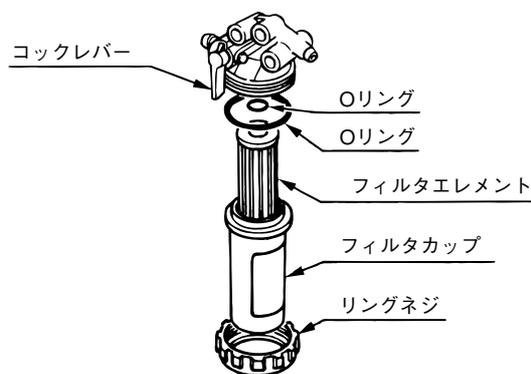
### 6-1 点検

- ① エンジンカバーをはずしてください。エンジン上方に付いている透明容器が燃料コシ器です。
- ② コシ器にゴミや水が沈澱していないか点検してください。沈澱していたら、下記の要領で掃除をしてください。

### 6-2 掃除・交換

- ① 燃料コシ器のコックを「閉」位置にしてください。

- ② カップを取外し、水・ゴミを取除いてください。
- ③ コシ器の洗浄が終わったら、燃料コックを「開」位置にして燃料を出しながら、コシ器内に空気が入らないようにカップを取付けてください。



## 7. エンジンオイルの点検・補給・交換

### ⚠ 注意

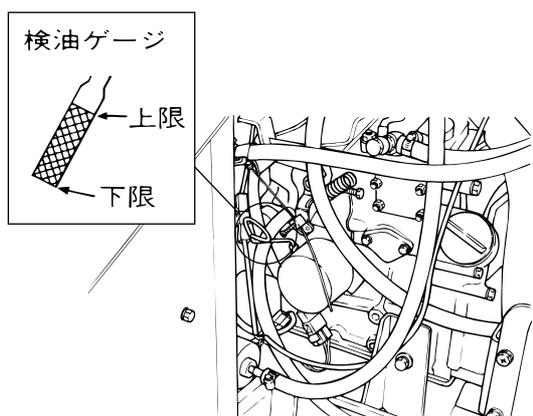
エンジンオイルに触れると肌荒れを生じることがありますので、取扱いにはゴム手袋などの防護をしてください。万一、肌に着いた場合は、速やかに洗い落としてください。

エンジンオイルの点検・補給・交換は、エンジン始動前か、エンジンが冷えているときに行ってください。作業は、エンジンカバーをはずしてから行ってください。作業終了後は、元通りにセットしてください。

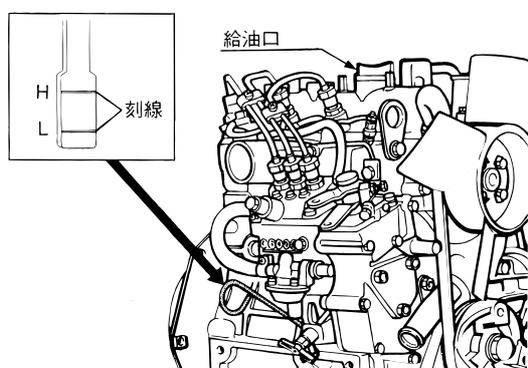
### 7-1 点検

- ① 給油ゲージを抜いて、先端をきれいに拭き取ってください。
- ② 給油ゲージを元通りに差し込んだ後、もう一度抜き出して、ゲージの上限と下限の間にオイルがあることを点検してください。
- ③ 点検後は、給油ゲージを元通りに取付けてください。

## ヤンマーディーゼルエンジン(3TN66)

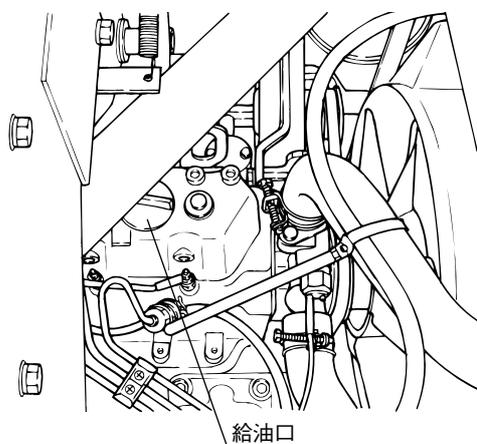


## クボタディーゼルエンジン(D722-B)



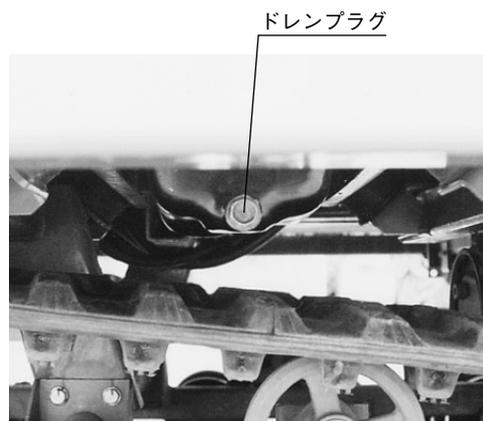
### 7-2 補給

オイルが不足している場合は、給油口から規定量になるまで補給してください。

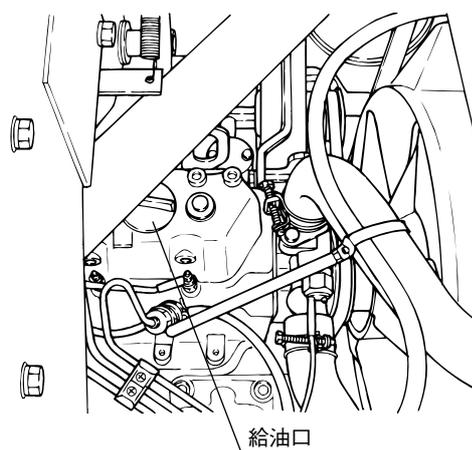


### 7-3 交換

- ① ドレンプラグの下に、古いオイルを受ける容器を置いてください。
- ② 給油口のふたを外した後、ドレンプラグを取外してください。古いオイルが流れ出てきます。
- ③ 古いオイルが抜け切ったら、ドレンプラグを元通りに取付けてください。



- ④ 給油口から、エンジンオイルを規定量まで給油してください。
- ⑤ 給油口にふたを取付けてください。

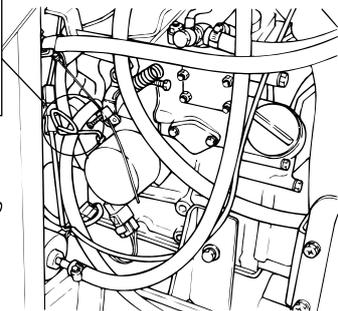
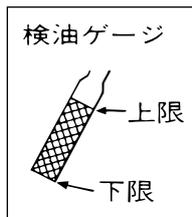


- ⑥ エンジンを始動し、パイロットランプが消えるまで、低速回転で回してください。

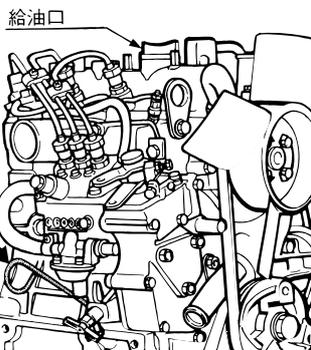
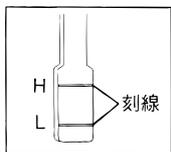


油圧パイロットランプ

- ⑦ 油圧パイロットランプが消えたら、エンジンを停止し、約5分間待ってください。
  - ⑧ 検油ゲージでオイル量を点検してください。不足している場合は、補給してください。
- ヤンマーディーゼルエンジン(3TN66)



クボタディーゼルエンジン(D722-B)



オイル銘柄	油 量	
	ヤンマー ディーゼル	クボタ ディーゼル
SAE10W-30 CC級以上	2.2 ℓ	2.0 ℓ

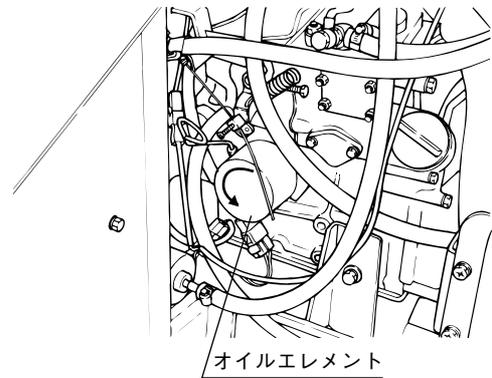
## 8. エンジンオイルエレメントの交換

エンジンオイルエレメントは、エンジンオイル内の小さな異物をこし取るものです。カートリッジタイプになっていますので、掃除ができません。定期的に交換してください。作業は、エンジンカバーを外してから行ってください。作業終了後は、元通りにセットしてください。

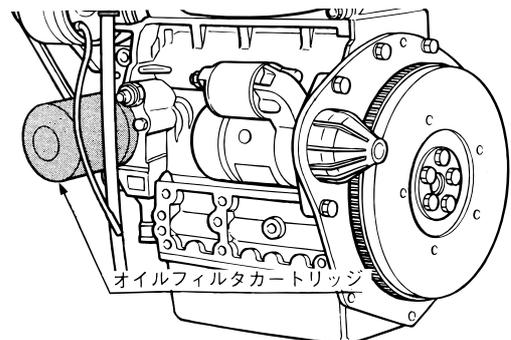
### 8-1 交 換

1. オイルエレメントを、矢印方向に回して取外してください。

ヤンマーディーゼルエンジン(3TN66)



クボタディーゼルエンジン(D722-B)



2. 新しいオイルエレメントの底面にあるゴムリングに、オイルを塗布してください。
3. オイルエレメントをゴムリングがエンジンケースに接触する位置までねじ込んだ後、2/3回転締め付けてください。

## 9. パイプ類の点検のしかた

### ⚠ 警告

作業前・作業後に、燃料パイプの老化や傷による燃料もれがないか点検し、燃料もれのある燃料パイプは交換してください。燃料もれがあると火災の原因になります。

燃料パイプやラジエータホースなどの傷みによる燃料もれ、水もれがないか点検してください。また、締付バンドがゆるんでないか点検してください。

燃料パイプやラジエータホースは、傷みがなくても2年ごとに交換してください。

燃料パイプを交換したときは、空気（エア）抜きをしてください。

## 10. エアクリーナの掃除・交換のしかた

エアクリーナは、吸入された空気に含まれている砂塵を取り除き、シリンダライナやピストンリングの摩耗を防ぐ装置です。

作業は、エンジンカバーを外してから行ってください。作業終了後は、元通りにセットしてください。

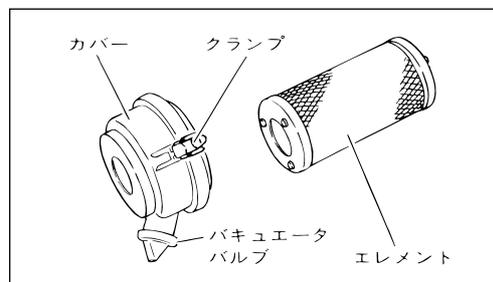
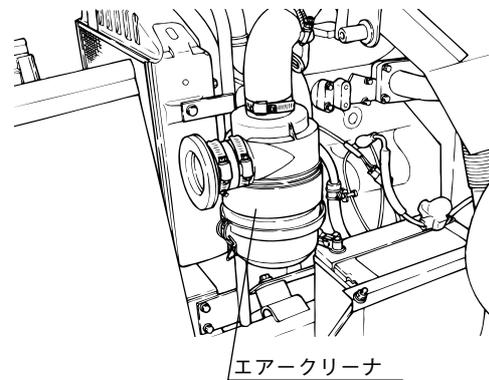
### 10-1 掃除・交換

- ① エンジンカバーを外してください。
- ② カバーのクランプを外して、エレメントを取出してください。

- ③ エレメントは、内側から空気（7kg/cm<sup>2</sup>以下）を吹きつけるか、中性洗剤の水溶液でザブ洗いしてください。
- ④ エレメントの汚れが著しい時や破損があれば新品と交換してください。
- ⑤ 取付けるときは、取外しの逆手順で行ってください。

### 取扱上の注意

- エレメントを洗った時は完全に乾かしてください。  
なま乾きのエレメントは、絶対に使用しないでください。エンジン作動不良の原因になります。
- 中性洗剤の水溶液でサブ洗いするときは、ろ紙を傷つけないようにゆっくり洗ってください。
- エレメント交換するときは、純正部品を御使用ください。

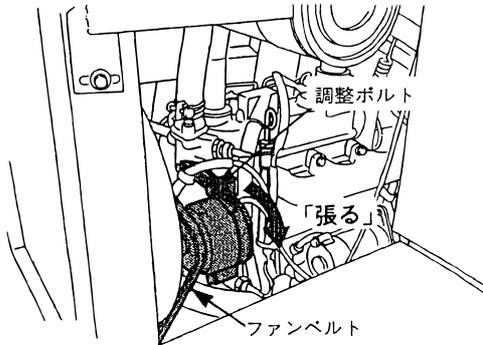


純正エレメント

部品コードNO. 7655160

## 11. 冷却ファンベルトの点検

作業はエンジンカバーを外して、下記の点検・調節をしてください。点検・調節後は、元通りにセットしてください。



### 11-1 点 検

ベルトの中央を指で押したとき、たわみ量が10～15mmであるか確認してください。

### 11-2 調 節

- ① ジェネレータは、取付ボルトを緩めてください。
- ② ジェネレータを引っ張り、ベルトを張ってください。
- ③ ジェネレータ取付ボルトを締め付けて固定してください。

## 12. 冷却水の点検・補給・交換

### ⚠ 警告

ラジエータキャップは、エンジン運転中や停止直後に開けないでください。開けると熱湯が吹き出し、ヤケドするおそれがあります。エンジンの停止後、10分程度たってから、エンジンの冷えていることを確認して開けてください。

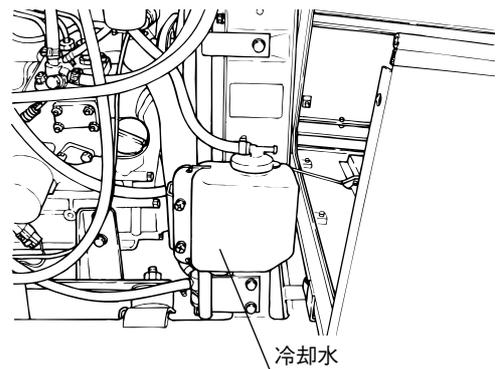
冷却水の点検・補給・交換は、エンジンカバーを外してから行ってください。作業終了後は、元通りにセットしてください。

### 12-1 点 検

サブタンク内の冷却水が「FULL」「LOW」の範囲内にあるか点検してください。

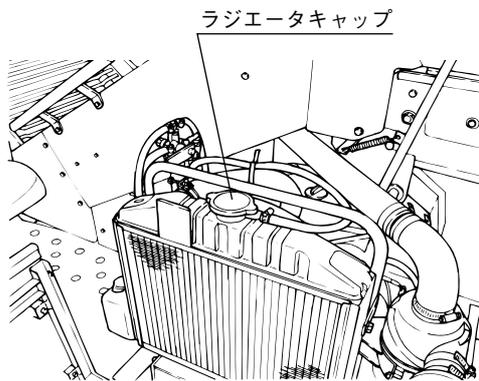
### 12-2 補 給

冷却水が不足している場合は、サブタンクのキャップを外し、きれいな水道水を補給してください。



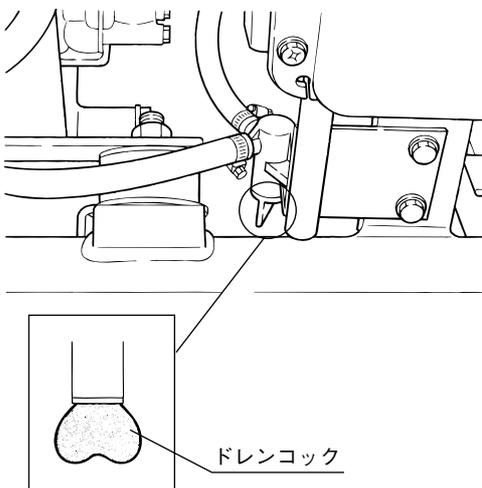
## 12-3 交換

- ① ラジエータキャップを取外してください。

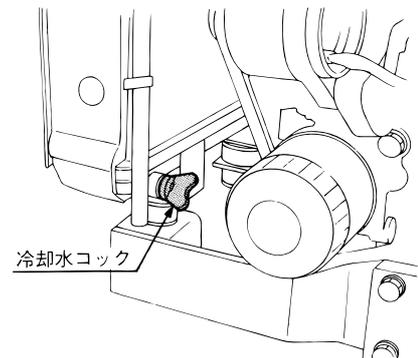
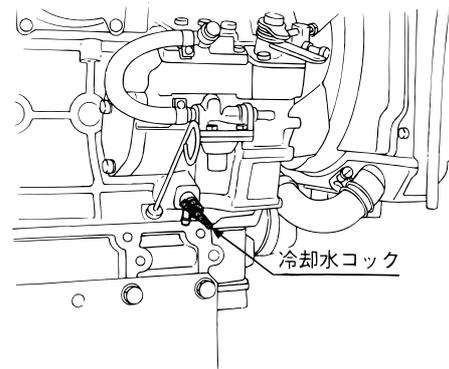


- ② ドレンコックを取り外し、ラジエータ内の水をすべて抜いてください。
- ③ 水道水でゴミや錆が出なくなるまでラジエータ内を洗います。
- ④ ドレンコックを元通りに取り付け、不凍液を必要量入れた後、水道水をあふれるまで入れてください。

### ヤンマーディーゼルエンジン(3TN66)



### クボタディーゼルエンジン(D722-B)



- ⑤ ラジエータキャップを取付けてください。
- ⑥ エンジンを始動し、5分間エンジンを空運転して、不凍液の混合を早めてください

## 取扱上の注意

1. 不凍液は、水の凍結温度を下げる効果があります。不凍液の混合比によって凍結温度がことなりますので、厳寒地帯などでは下記の表を参考にして、安全な濃度で使用してください。

不凍液混合率表

外気温度(℃)	-5	-10	-15	-20	-25	-30
比						
水 (%)	85	75	70	65	60	55
率						
不凍液 (%)	15	25	30	35	40	45

2. 出荷時には、不凍液が入っています。冷却水交換時には、新たに不凍液を入れてください。
3. 不凍液の混合比は、メーカーによって多少異なりますので、メーカーの取扱説明書の指示に従ってください。
4. 不凍液の有効期限は1年です。毎年、新しい不凍液と交換してください。

## 13. 走行ミッションオイルの点検・交換

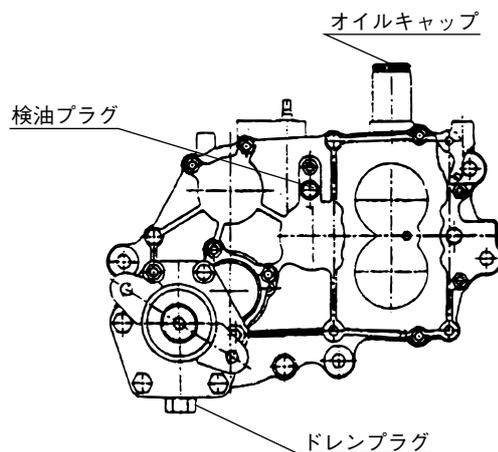
### 取扱上の注意

毎シーズン初めに規定量入っているか確認してください。

交換作業は、お買い上げ頂いた販売店に依頼してください。

### 13-1 点検

- ① 走行ミッション側面にある検油プラグを緩めて、オイルが規定量入っているか確認し、少ない場合は補充してください。



### 13-2 交換

- ① オイル交換は、ドレンプラグを外して抜きます。  
オイルキャップを外しておくと早く抜けます。
- ② オイルを注入するときは、ドレンプラグをしっかり締めてください。  
オイルは検油プラグまで入れてください。

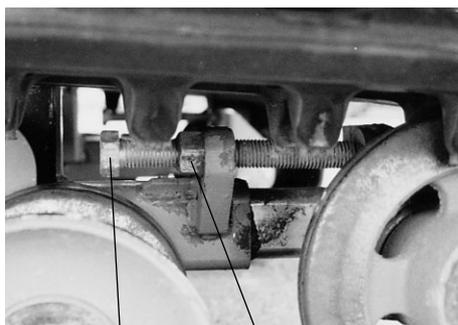
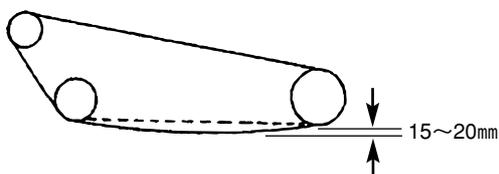
オイル銘柄	油量
ギヤーオイル#90	約3.8ℓ

## 14. ゴムクローラの張りかた

### 取扱上の注意

適時に、点検・調節を行ってください。  
初回使用30時間は、増締めが必要です。

- 14-1 ゴムクローラの張り方は、本機を持ち上げた状態で、張り量が「15～20mm」になるように押しボルトで調節してください。



押しボルト

ロックナット

### 取扱上の注意

ジャッキアップするときは、地面が固く、平坦な場所で必ず1トン以上の容量のジャッキを使用して行ってください。

- 14-2 調節後は、ロックナットをしっかりと締めてください。

### 取扱上の注意

張り方が弱いと、脱輪し易くなります。

## 15. HST油圧オイルの交換

### 取扱上の注意

オイル量の点検は、オイル漏れ等、ない場合は必要ありませんが、1年又は500時間ごとにオイルとオイルフィルタを同時に交換してください。

オイルの交換を怠ると、機械の寿命を短くする恐れがありますので指示にしたがってください。

交換作業は、お買い上げ頂いた販売店に依頼してください。

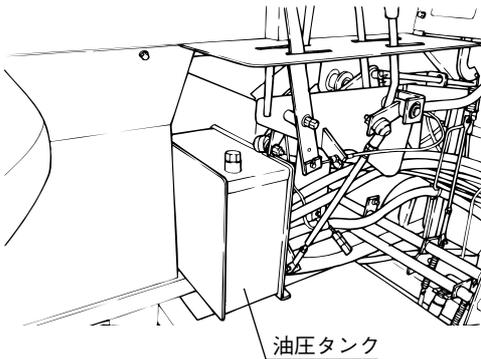
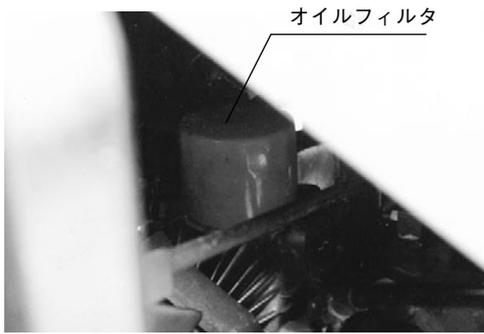
又、HST本体のドレンプラグを緩めての交換作業は絶対にしないでください。故障の原因となります。

- 15-1 オイルの交換は、油圧タンク下側のドレンプラグを外して抜きます。

- 15-2 オイルフィルタの交換は、ミッション上部にあるフィルタを左に回して取外してください。フィルタの取外し時にもオイルが少し出ますので、オイル受けを下に置いて作業してください。

- 15-3 オイルフィルタの取付けは、新品のフィルタ取付面ゴムパッキン部に薄くオイルを塗り、右に回して手で締め付けてください。

- 15-4 ドレンプラグを本体に締め付けてから、新しいオイルを、キャップ部より規定量（キャップを軽くねじ込んで、キャップのゲージ棒の先端から上のきざみ線の範囲）入れてください。



**補充**

品名	銘柄
オイル	昭和シェルオイル 10W-30 CD級以上 (フリートマルチ、ロードレックス、 リムラX等)

**交換**

品名	銘柄	
オイル	昭和シェルオイル 10W-30 CD級以上 (フリートマルチ、ロード レックス、リムラX等)	7ℓ
オイル フィルタ	純正品 部品コードNO. 764-0213	

**取扱上の注意**

オイル、オイルフィルタは指定品を必ず使用してください。  
他品との混用は機械の寿命を短くする恐れがあります。

15-5 HST内部のエア抜きを二人作業で行ってください。

**⚠ 注意**

HSTバイパスバルブを手で押し込むときは、必ず副変速レバーを中立にし、回転物に注意し、又、本機が少し動くこともありますので、二人で互いに合図をしながら、安全を確認して作業してください。

- ① 副変速レバーを中立にします。
- ② エンジンを始動し、アイドル回転にします。
- ③ 一人がHST下部のバイパスバルブを手で押し込み、他の一人がクラッチレバーを走行クラッチ「入」にし、主変速レバーを前方、後方約1分間動かし、エア抜きを十分行ってください。

HSTより異音が出ることがありますが、異常ではありません。

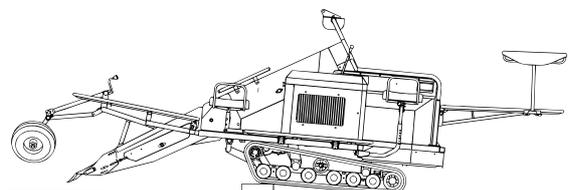
**取扱上の注意**

HSTのエア抜きが終わるまではHSTに負荷をかけないでください。

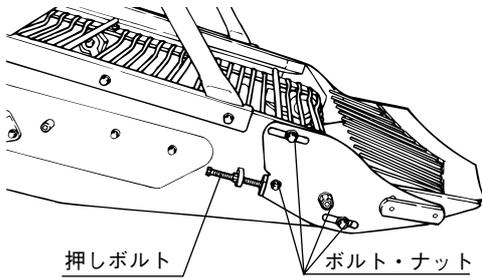
**16. 掘取コンベアの張りかた**

- 16-1 左右クローラ前にブロック等を置き、前進させて乗り上げ、前上がりの状態にします。
- 16-2 掘取コンベアを上・下フレームが一直線になるまで下げて、エンジンを停止させます。

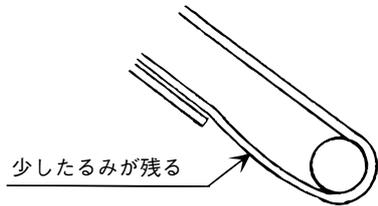
この状態でコンベア先端が、地面に設置するようでしたら、もう少し高いブロックにして接地しないようにしてください。



- 16-3 写真矢印の締付けボルト・ナットを緩め、押しボルトを両面同じように締め込みます。



張り具合は、下側コンベアが少したるみが残る程度の張りにしてください。



- 16-4 調節が終わったら、締めたボルト・ナット・ロックナットを締付けてください。

- 16-5 主変速・副変速レバーを「中立」位置に合わせ、クラッチレバーを作業クラッチ「入」にし、しばらくコンベアを回し、異常がないか確認してください。

## 17. コンベア従動ローラの点検

- 17-1 シーズン始めに、左右の従動ローラにグリスアップします。
- 17-2 「ローラ軸芯」中央部にグリスニップルが付いています。まわりの土をきれいに落とし、グリスアップします。



グリスニップル

## 18. コンベア用HSTオイルの点検

- 18-1 オイルタンクにオイルが規定量入っているか確認します。少ない場合は、規定量（下限、上限の範囲）入れてください。

### 補充

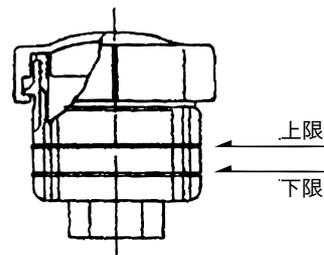
品名	銘柄
オイル	昭和シェルオイル 10W-30 CD級以上 (フリートマルチ、ロードレックス、リムラX等)

### 取扱上の注意

コンベア変速部のHSTオイルの点検は、毎シーズン初めに、規定量入っているか確認してください。

オイルの補給は、お買い上げ頂いた販売店に依頼してください。

又、HST本体のドレンプラグを緩めての交換作業は絶対にしないでください。故障の原因となります。



## 19. コンベア減速機オイルの点検

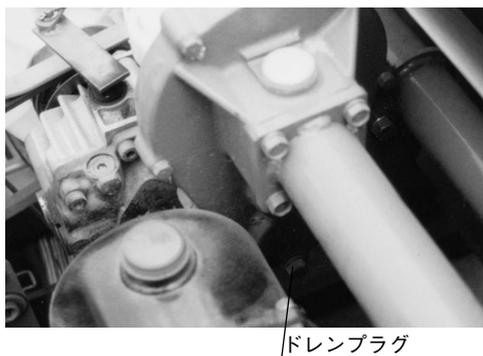
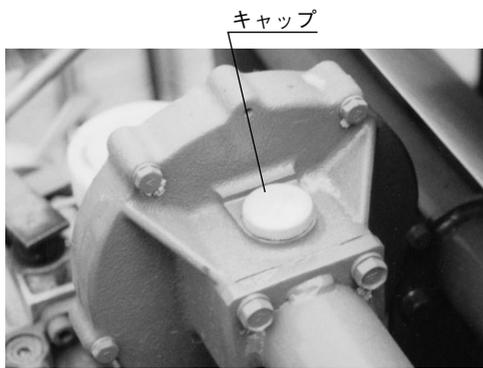
### 取扱上の注意

毎シーズン初めに規定量入っているか確認してください。

交換作業は、お買い上げ頂いた販売店に依頼してください。

### 19-1 点検

- ① 減速機側面にある点検窓からオイルが規定量入っているか確認し、少ない場合は補充してください。



### 19-2 交換

- ① オイル交換は、ドレンプラグを外して抜きます。

オイルキャップを外しておくと早く抜けます。

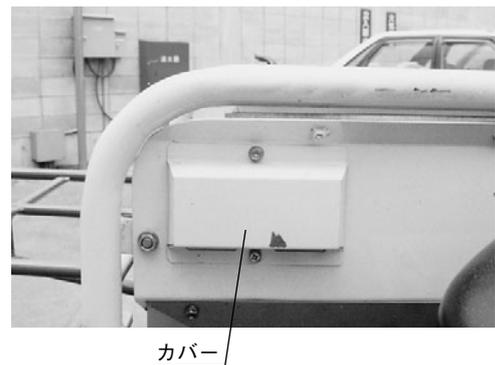
- ② オイルを注入するときは、ドレンプラグをしっかり締めてください。  
オイルは、点検窓下限から中心まで入れてください。

オイル銘柄	油 量
ギヤオイル #90	約0.35 ℓ

## 20. 選別コンベアの調節

### 取扱上の注意

選別コンベアの張りは自動調節になっていますが、コンベアのスリップが発生したら調節を行ってください。



- 20-1 カバーを取外してロックナットをゆるめてください。

- 20-2 調節ナットをバネの長さが「21mm」になるまで締め込んでください。左右同じに調節します。

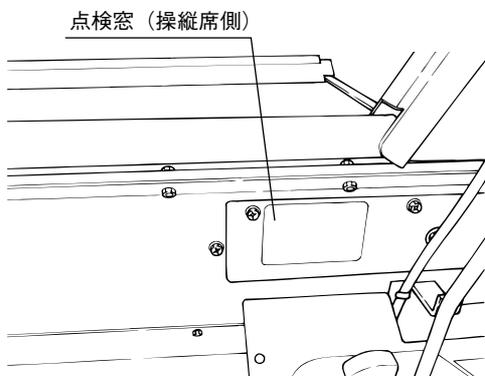


ロックナット

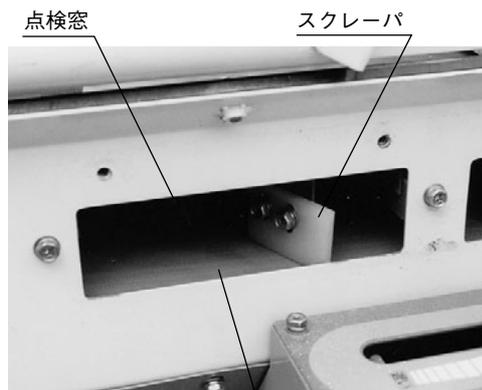
- 20-3 エンジンを始動し、しばらくコンベアを回してベルトのスリップ、左右の張りを確認してください。
- 20-4 調節が終わったら、ロックナットを締めて、カバーをしてください。

## 21. 選別コンベア内部の点検

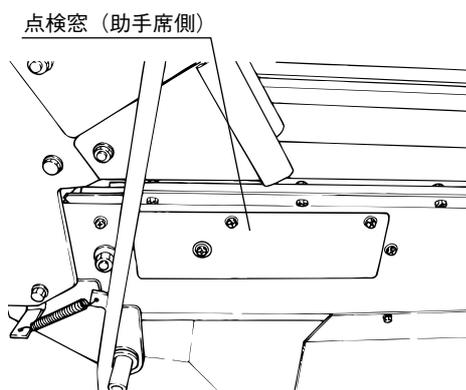
- 21-1 作業50時間ごとに、左右の点検窓を開けて選別コンベアベルト内部に土が侵入していないか点検してください。
- 21-2 選別コンベアベルト内部に土が侵入している時には、点検窓から水で洗い流してください。



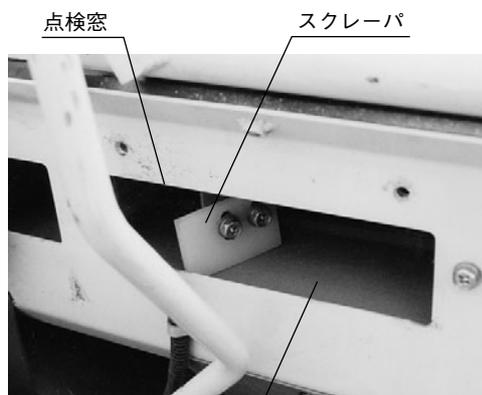
点検窓（操縦席側）



選別コンベアベルト



点検窓（助手席側）



選別コンベアベルト

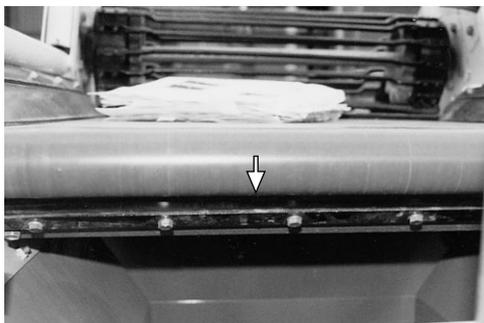
- 21-3 スクレーパの調節方法は、ボルトを緩め、スクレーパが選別コンベアベルトにすき間なく当たるように調節して、ボルトを締めてください。

## 22. スクレーパの調節

### 取扱上の注意

長年使用されますと、徐々に摩耗しコンベアベルトとの間にスキマが生じ、土が付着したり、ベルト内部に土が入り、トラブルの原因となります。

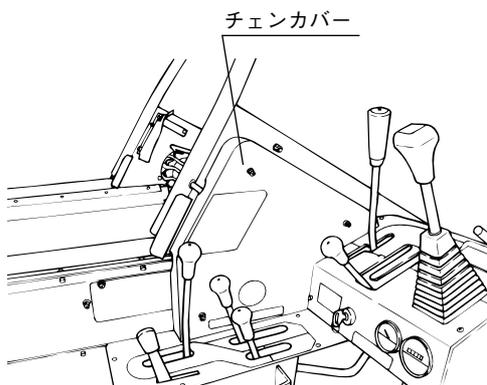
定期的（年1回を目安）に調節してください。



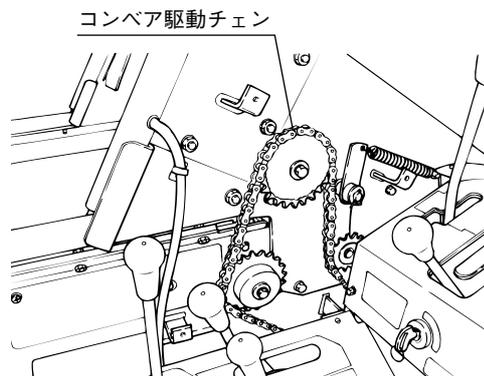
- 22-1 調節方法は、ボルトを緩め、手で軽くゴムをベルトにあてて、ボルトを締めてください。

## 23. コンベア駆動チェーンの点検

- 23-1 チェンカバーをあけてください。



- 23-2 コンベア駆動チェーンに、毎シーズン初めにオイルを軽く注油してください。

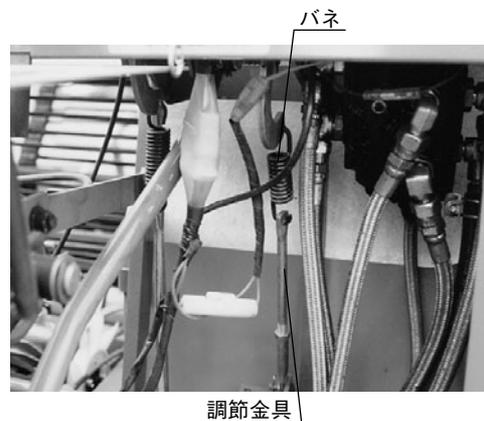


## 24. 走行クラッチレバーの調節

- 24-1 走行クラッチレバーが「切」で確実にクラッチが切れ、レバーを「入」にした時、確実に動力が伝わるようにしてください。

- 24-2 調節は、走行クラッチワイヤの調節金具を伸縮させて、行ってください。

クラッチを「入」にした時に、バネの長さが「85mm」になるようにしてください。

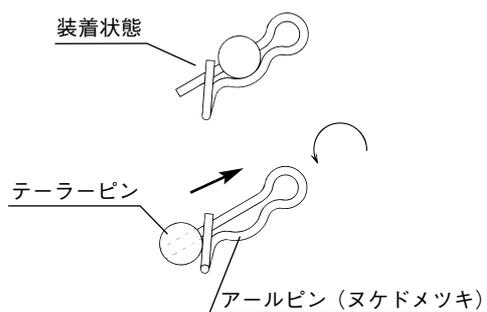


- 24-3 調節は、一度に大きくしないで、少しずつ調節しながら行ってください。

## 取扱上の注意

調整金具についているアールピン（ヌケドメツキ）は、左にねじりながら抜いてください。

また、入れる時も同じ様に左にねじりながら押し込んでください。

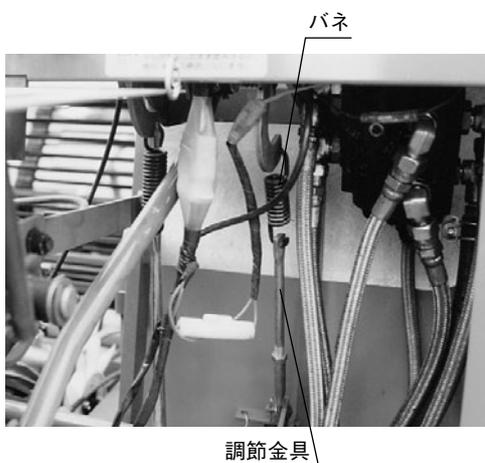


## 25. 作業クラッチレバーの調節

25-1 作業クラッチレバーは、走行クラッチと作業クラッチが同時に作動します。

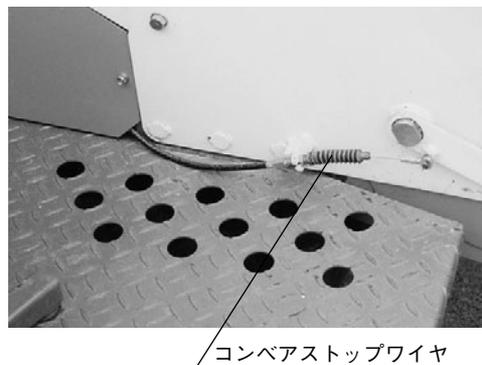
25-2 作業クラッチレバーが「切」で確実にクラッチが切れ、レバーを「入」にした時、確実に動力が伝わるようにしてください。

25-3 作業クラッチは、作業クラッチワイヤの調節金具を調節して、クラッチを「入」にした時バネフックの長さが「85mm」になるようにしてください。



## 26・コンベアストップワイヤの調節

26-1 クラッチレバーを作業クラッチ「入」にして、コンベアを動かしている状態で、コンベアを上下させて、コンベアが水平以上に上がると止まり、水平より下がると動き出すよう、調節してください。



26-2 調節は、コンベアストップワイヤの調節金具を伸縮させて行ってください。



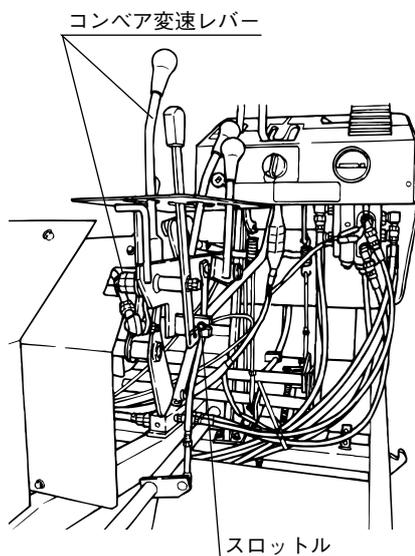
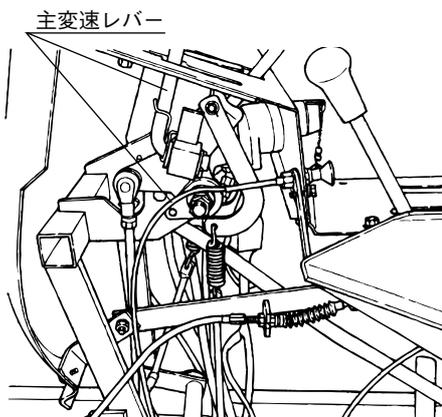
26-3 調節は、一度に大きくしないで、少しずつ調節しながら行ってください。

## 27. 主変速レバー、コンベア速度レバー、スロットルレバーの支点部の緩み調節

### 取扱上の注意

適時、点検・調節をしてください。

27-1 作動時に戻らないように締め付けて、ナットでロックしてください。



## 28. ヒューズ・スローブローヒューズの点検・交換

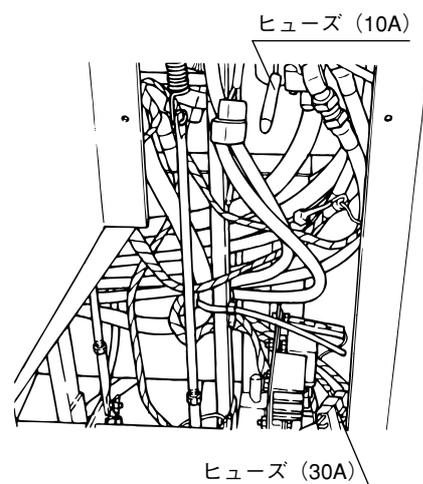
### ⚠ 警告

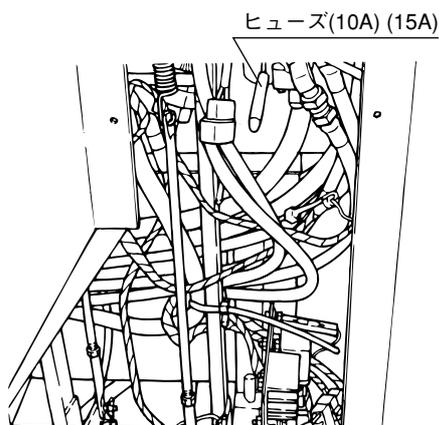
- 配線コード・ハーネスが他の部品に接触していないか、被覆のはがれがないか作業前に点検してください。
- 指定以外のヒューズや針金・銀紙の使用は絶対にしないでください。

### 28-1 ヒューズの点検・交換

- ① ヒューズボックスのフタをはずして点検します。
- ② ヒューズボックスは、キースイッチの裏側にあります。
- ③ 切れたヒューズは、必ず同容量のヒューズと交換してください。
- ④ 針金や銀紙などの代用は絶対にしないでください。  
機械の破壊につながります。
- ⑤ 交換してもすぐ切れる場合は、ショートしているおそれがあります。点検・修理をしてください。

### ヤンマーディーゼルエンジン (3TN66)



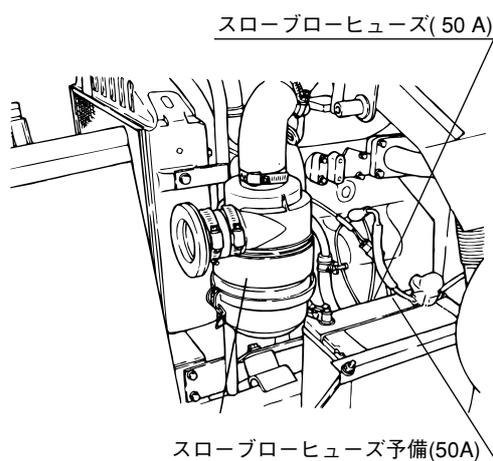


### 28-2 スローブローヒューズの点検・交換

スローブローヒューズは、配線を保護するためのものです。

切れた場合は販売店で点検・修理をしてください。また、代用品を使用しないで、必ず純正部品を使用してください。

スローブローヒューズ
50 A
(部品コードNo.764-0679)



## 29. バッテリ・配線の点検

### ▲ 警告

- ① バッテリの点検・取扱いは、エンジン停止、キースイッチを「OFF」の状態で行ってください。
- ② バッテリは、水素ガスを発生しますので、爆発の恐れがあります。  
タバコなどの火気を近づけたり、スパークを起こすような行為はやめましょう。
- ③ バッテリ液は希硫酸ですので、もしバッテリー液が衣服や皮膚に付着したらすぐに、大量の清水で洗い落としてください。目に入ったときは、直ちに清水で洗い、その後、医師の治療を受けてください。
- ④ バッテリの取外しは、⊖側端子から取外し、取付けは⊕側端子から行ってください。⊕端子と機体の間に工具等が触れるとスパークをおこし危険です。
- ⑤ 端子がゆるんでいると、接触不良によりスパークが発生し爆発の危険があります。端子を取付けるときは、しっかり取付けてください。
- ⑥ ⊕⊖の取付けを絶対に間違えないでください。

### 29-1 バッテリーの点検

バッテリーはエンジンの後ろにあります。作業前に点検してください。

1. エンジンカバーを外し、バッテリー上部に付いているハイδροメータで確認をしてください。
2. 水平なところで確認してください。

インジケータの色	充電状態	必要処理
グリーン	正 常	正常使用できます
ブラック	不 足	補充電が必要です
透 明	液が不足	始動できないとき バッテリー交換

(新品時装着、デルファイ(デルコ)バッテリーを示す)

指定バッテリー
60B24R相当

3. ハイδροメータがグリーンからブラックに変わっている場合、または端子電圧12.4V以下の場合には補充電が必要です。  
バッテリーを外し、充電してください。

### 29-2 精製水の補充（補水）

1. 新品時装着されているバッテリーは、注液口がなく、補水の必要がありません。  
(密閉形で寿命まで補水不用タイプ)

### 29-3 配線の点検

1. 配線コード、ハーネスを点検し、被覆の亀裂・摩耗・焼け等があれば交換してください。  
配線は振動したり動く部分をさけ、結束バンドで固定してください。

### 29-4 ボディアースの点検

1. 作動不良の多くは、ボディアースの不良に原因があります。毎シーズン前にアース接点を点検し、サンドペーパーやワイヤブラシでサビを落としてください。

# 作業が終わったら

## ⚠ 警告

1. 点検・整備をするときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてから行ってください。機械に巻き込まれてケガをするおそれがあります。
2. 点検・整備をするときは、平坦で安定した場所で行ってください。本機が転倒するなど、思わぬ事故の原因になります。

## ⚠ 注意

点検・整備するときは、過熱部分が十分冷めてから行ってください。ヤケドをするおそれがあります。

## 1. 作業後の手入れ

1-1 その日の内に本機を水洗いし、水洗い後は下記に従って、掃除を行ってください。

- ① 掘取コンベアの内側についた土を付属の土落とし棒で取り除く。
- ② 水分をよくふき取る。
- ③ 油をしみこませた布で清掃する。
- ④ スキ先などサビやすい所にグリスを塗る。
- ⑤ チェン・ワイヤ類、および回転部や摺動部に注油する。

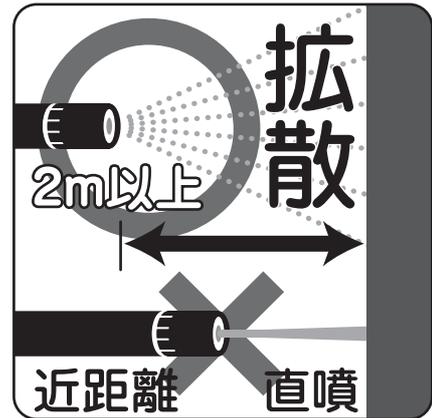
## ⚠ 危険

エンジン回転中やエンジンが熱い間は、燃料を抜いたり、注油・給油を絶対にしないでください。燃料などに引火して、火災の原因になります。

## ⚠ 注意（高圧洗車機）

機械を損傷させないように洗車ノズルは拡散にし、2 m以上離して洗車してください。もし、直射や不適切に近距離から洗車すると機械の破損・損傷・故障や事故の原因になります。

- 例
- 1) 電気配線被覆の損傷・断線によるショート、火災の発生
  - 2) シール・ラベルの剥がれ
  - 3) 電子部品等への水浸入による故障
  - 4) 樹脂類（カバーなど）の破損
  - 5) 塗装・メッキ皮膜の剥がれ



## 2. 長時間（来シーズン）使用しない場合の手入れ

2-1 機械の整備不良による事故などを未然に防止するために、又、来シーズン安心してポティを使って頂くために、1シーズンごとにお買い上げ頂いた販売店で有料点検・整備を受け、各部の安全を確保してください。

## 3. 格納

3-1 格納は平らで、固い場所及び、乾燥した風通しのよい屋内でコンベアのロックチェンを取付けて格納してください。

### ⚠ 警告

格納するときは、必ずロックチェンを取付けてください。

守らないと誤操作で、掘取部が突然下がり傷害事故や機械の損傷につながるおそれがあります。



3-2 各クラッチは、「切」にし、駐車ブレーキをかけてください。

3-3 各部のサビやすい部分に、防錆油又は、エンジンオイル・グリスを塗ってください。特にスキ先部分は、掘取性能に影響します。必ずサビ止めをしてください。

3-4 バッテリーを完全充電し、なるべく本機から取外し、風通しの良い冷暗所に保管してください。  
又、本機に取付けたまま保管する時は、かならず 端子を外してください。

### ⚠ 警告

格納する場合は、バッテリーを取外し、キーを抜き取り保管してください。  
守らないと、事故をおこすおそれがあります。

3-5. 燃料タンクに燃料を満タンにしてください。  
空にしておきますと、水滴ができてサビの原因になる場合があります。

### ⚠ 危険

燃料補給や燃料を抜いた後は、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。守らないと、火災やヤケドの原因になります。

3-6 冷却水を抜き取ってください。

3-7 エアクリーナ・マフラー・エンジンオイル給油口などから湿気が入らないよう、ポリエチレンなどの袋で密閉してください。

3-8 本機を保護カバーをかけて保管してください。

### ⚠ 警告

保護カバーをかける際、必ずエンジンが冷めてから、カバーをかけてください。  
守らないと、保護カバーが燃え、火災事故につながります。

### 取扱上の注意

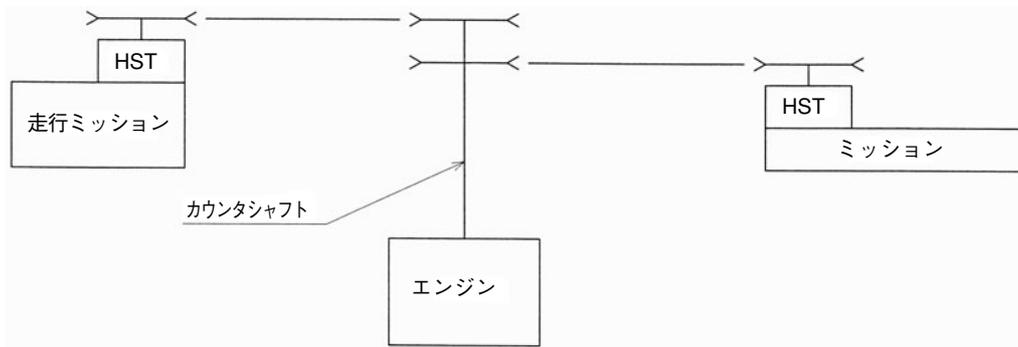
エンジン回りの長期保管方法については「エンジンの取扱説明書」を読んでください。

# その他

## 1. 標準付属品

標準付属品
エンジン取扱説明書 保護カバー 取扱説明書 ラベル（ポティシリーズ） ロックチェーン 空コンテナ台、土落とし棒 コンテナ固定ベルト

## 2. Vベルト規格



場 所	サイズ（バンドー）	サイズ（三ツ星）
カウンタ～掘取HST	W800 SB32	AG-6A LB32
カウンタ～走行HST	W800 SC42	AG-6A LC42

※上記のVベルト規格表は、エンジンカバーを外してラベルにて確認する事もできます。

# 主要諸元

型 式 名		コバシ HS700D			
区 分		-Y		-K	
全 長 × 全 幅 × 全 高	収納時 (mm)	2680×1635×2365			
	作業時 (mm)	5000×2790×1655			
機 体 質 量 (kg)		1026			
適 応 作 物		甘しょ・バレイショ・短根ニンジン			
エ ン ジ ン	型 式 名	3TN66-UKBH (ヤンマー)		D722-B-KOBASHI-2 (クボタ)	
	種 類	立形水冷4サイクル三気筒ディーゼルエンジン			
	総 排 量 (ℓ {cc})	0.658 {658}		0.719 {719}	
	定 格 出 力 (kw{ps}/rpm)	10.3 {14} /2800		10.3 {14} /2800	
	燃 料 タ ン ク 容 量 (ℓ)	20			
	使 用 燃 料	ディーゼル軽油			
	始 動 方 式	セルモータ式			
走 行 部	旋 回 放 式	信地及び超信地旋回 (油圧式マルチレバー)			
	クローラ幅×接地長 (mm)	250×1220			
	クローラ中心距離 (mm)	800			
	平 均 接 地 圧 (kpa{kg/cm <sup>2</sup> })	16.5 {0.17}			
	変 速 方 式	高低2段×無段変速 (HST)			
走 行 速 度 (m/s)	前 進	L	H	0 ~ 0.41	0 ~ 1.31
	後 進	L	H	0 ~ 0.41	0 ~ 1.31
掘 取 部	掘 取 幅 (mm)	680			
	掘 取 方 式	ゴムベルト式バーコンベア			
	掘 取 変 速	無断変速 (HST)			
	掘 取 部 角 度	30°			
	掘 取 深 さ (溝底より) (mm)	165 (最大270)			
	掘 取 部 上 下 方 式	複動式油圧シリンダ			
収 納	選 別 方 式	人力 (選別平コンベア有)			
	コ ン テ ナ 積 載 量 (個)	最大32個 (空コンテナ12個)			
作 業 能 率 (分/10a) 注1		91 ~ 218 (うね間900mm)			
作 業 人 員 (人)		2 ~ 4			
う ね 間 (mm)		800以上			
安 全 鑑 定 番 号		25032			

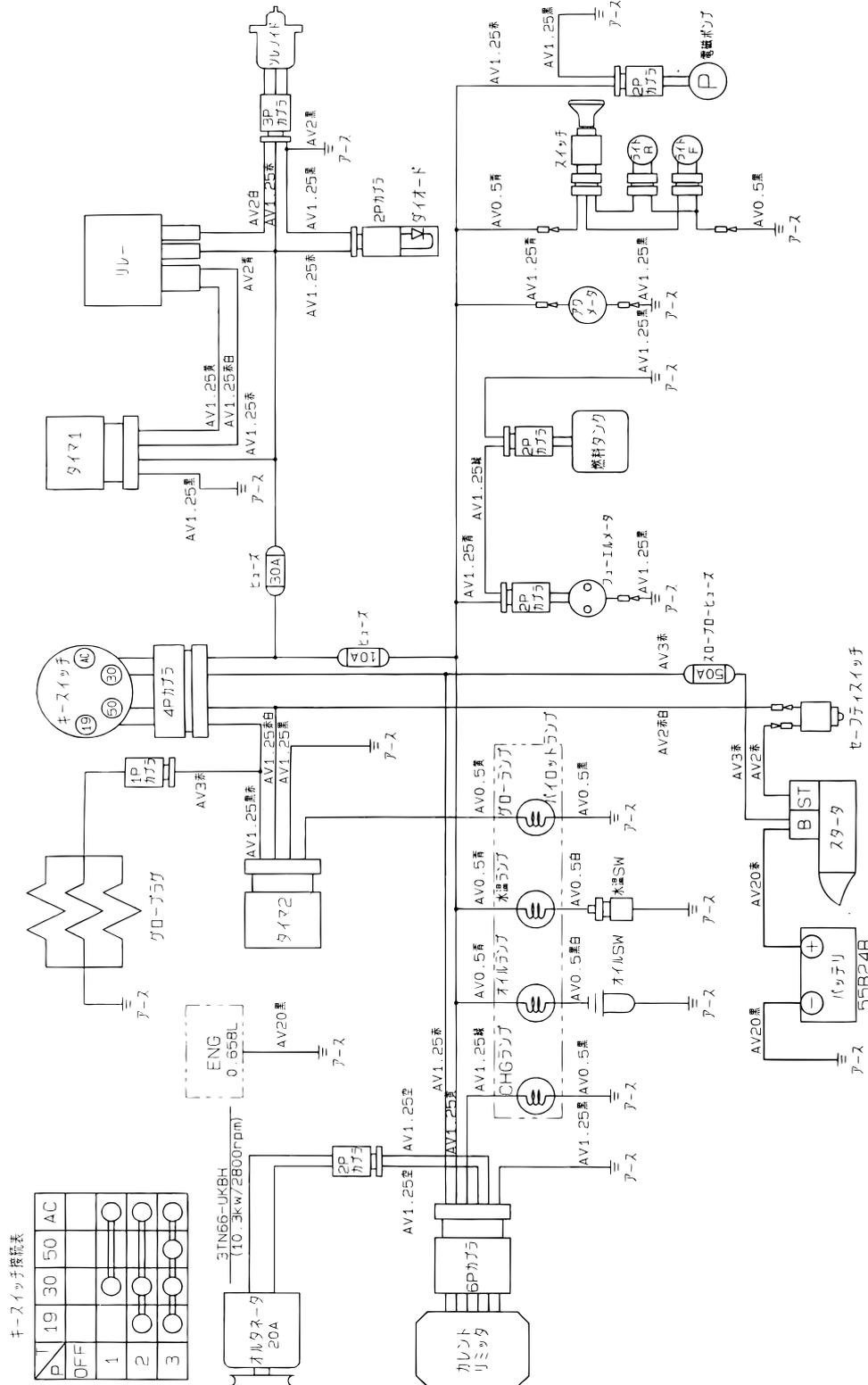
注1. 作業速度2人時0.10m/s、4人時0.24m/s、作業効率0.85として算出。(HP60S評価試験成績を参考にする。) ※この主要諸元は、改良のため予告なく変更することがあります。

# 電気配線図

配線図

エンジン型式名

3TN66-UKBH



キースイッチ接続表

P	19	30	50	AC
	OFF			
	1			
	2			
	3			

ライト15W

ライトスイッチ

1 段引く ライトF (前方) 点灯

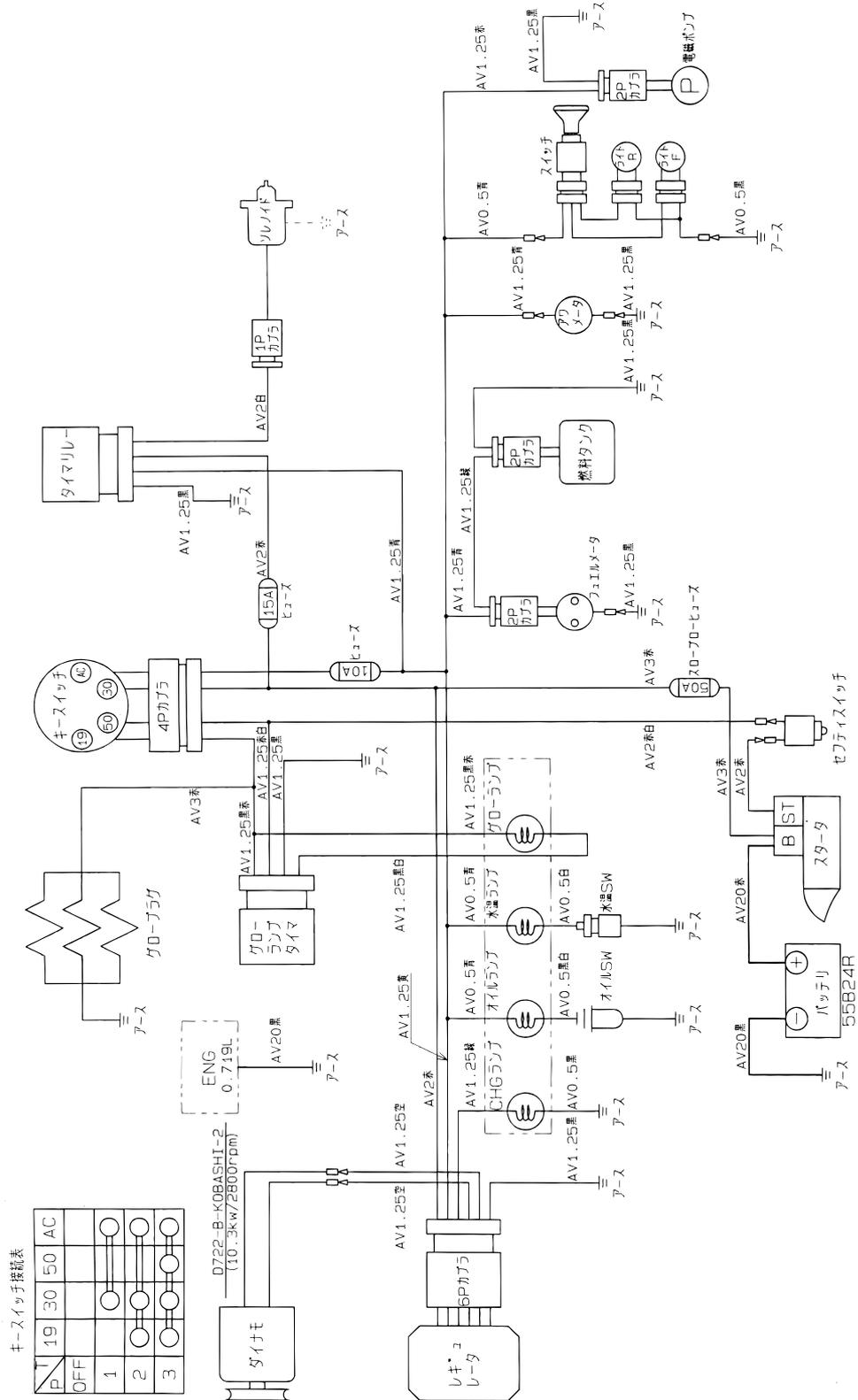
2 段引く ライトF (前方) ライトR (後方) 点検

# 電気配線図

配線図

エンジン型式名

D722-B-KOBASHI-2



キースイッチ接続表

19	30	50	AC
P			
OFF			
1	○	○	○
2	○	○	○
3	○	○	○

ライト15W

ライトスイッチ

1 段引く ライトF (前方) 点灯

2 段引く ライトF (前方) ライトR (後方) 点灯

# KOBASHI

小橋工業株式会社

〒701-0292 岡山市南区中畦684

☎ (086) 298-3112

インターネットでも弊社の情報をご覧いただけます。

<http://www.kobashikogyo.com>

■北海道営業所	〒071-1248	北海道上川郡鷹栖町8線西2号6番	☎ (0166) 49-0070
■東北営業所	〒024-0004	岩手県北上市村崎野13地割35-1	☎ (0197) 71-1160
■関東営業所	〒321-3325	栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台47-1	☎ (028) 687-1600
■新潟営業所	〒942-0041	新潟県上越市安江477-1	☎ (025) 546-7747
■岡山営業所	〒701-0165	岡山市北区大内田727	☎ (086) 250-1833
■九州営業所	〒861-2236	熊本県上益城郡益城町広崎1586-8 2F	☎ (096) 286-0202